令和4年度　[illegible]作市立勝田小学校　学校評価書　別紙

（A：目標を上回った　B：ほぼ目標どおり　C：目標を下回った）

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価 達成状況	評価	総括評価	分析・改善方策	学校関係者評価
1　学力と体力の向上	【基礎・基本の徹底】 ○朝学習、補充学習等の時間を活用し、漢字の前倒し学習やデータベース問題等を使用した学習などに取り組み、読む・書く・計算等の基礎・基本を身に付けさせる。	・基礎・基本的な事項の定着率向上を図る。 （目標値：定着確認テスト90%以上）	基礎基本定着度(90)% 11月の漢力定着状況確認テストの正答率は計算、漢字とも目標以上で、朝学習や付加漢字学習と家庭学習の内容をリンクさせ、基礎基本の反復学習ができるようにした。また、朝学習→授業→宿題→朝学習のサイクルで取り組む学年が増えている。 基礎的な学習の学力(知識・技術)については、機器ハーモニカ・リコーダーの運指・ブレス・タンギング・音符指導等で徹底した。各学年に応じた身体反応や音楽・感覚が見られた。 毎月末に漢字プリントやテストをすることで定着しつつあるが、分からない漢字を自分で書くべしり、使い方を考えたりするまでは出来ていない。 朝学習は、読み聞かせを継続して行い、語彙や感情が豊かになってきている。 図形・算数の授業の後半には、練習の時間や高学年で書く時間を取り入れ、習熟を図った。 算数では、授業終盤に個別基礎計算のプリントを行い、速く正確に計算できるようにした。また、計算の反復練習によって、計算の処理能力が上がった。 朝学習での漢字配置練習を通して、全体的に習得率は高まっているが、時間をおいて再度実施すると習熟度が低下する。	B		・計算WEEKや漢字WEEKなど、それぞれの時期に上って課題を設定し、基礎学力を定着させる。 ・東書データベースを活用し、書く問題に取り組んでいく。 ・朝学習では、新出漢字・漢字ミニテストのサイクルの徹立（2年生以上全学年で実施） ・1年生は毎日読み聞かせを行い、語彙の獲立を目指す。 ・3年生以上全児童が自分の国語辞典を持ち、すぐに辞書引きを行うことができるようにする。 ・補充学習では、学力テストの過去問題に取り組み、解き方や時間配分などを指導する。 ・算数の授業の初めに、100マス計算（＋－×）に取り組み、基礎計算力の定着を図る。 ・計算や漢字のがんばりカードを取り入れて、自己の成長を児童自身が実感できる学習ーーーーをつくる。	・計算や漢字の習熟度反復学習を徹底反復することが、中学校の改革、その先の高校改学を実に学べることになることを児童に指導してほしい。
	【家庭学習の充実】 ○「家庭学習の手引き」や「生活ばっちりカード」による予習・自主学習の取組を活用することで、家庭と連携し家庭学習の習慣化を図る。 ○宿題や自主学習への取組意欲を高められるよう工夫する。	・保護者の理解・協力を促しながら家庭学習の習慣化を図るとともに、記録カード等を用いて実施率を向上させる。	漢字や計算の基礎基本の反復学習を行ったが、児童に自学の学習メニューを配布した以降、特に手立てが打てなかったこともあり、自主学習については推進的である。 家庭学習のねらいを「学習内容の定着」と「自分で決めた目標に向かって何をしたら良いかを考えるカをつける」という2つに整理した。 自主学習を出すことはできているものの、好きなことに偏をかく（）に終始している子も多く、取組内容の充実や多角化にはいたっていない。 家習を中心に、学校でも取り組んだ同じプリント（図・算）を何度も取り組むことで、定着度を図った。 連絡帳に日記を出し、文を書いたり、自分の思いを書いたりする機会を増やした。 自主学習や習題の解き直しに取り組むことで、自分の課題を意識して取り組む児童が増えた。 授業で解いた問題の活用問題を作って友だちに解いてもらうなど自主学習がみんなの学びに広がることもあった。	B		・家庭学習と授業をリンクさせ、必要観をもって取り組めるようにする。 ・生活バッチリカードの取組で、家庭への協力をお願いする。 ・学び方と学習内容の定着のねらいの共有→実践 ・「自楽メニュー」を配布し、児童の新しい楽も採用したり、取り組んだメニューのチェックをたびしながら、様々な学習の幅を児童と共に模索していく。 ・自楽ノートの「めあて・振り返り」の実施	・家庭学習に成果を感じ、より効果がも下るような方法をしのが考えていただきたい。初えば、復習しかい場合と復習した場合の「学習内容の定着度」を自己分評させてみることで、復習の効果を理解できると考える。
	【授業改善】 ○学習規律を身に付け、主体的・意欲的に学習する児童を育てるため、ICT機器の活用や特別支援教育の視点をもとに、勝田小学校の児童実態に即した授業づくりを一層進める。 ○一人1回以上の授業公開や公開授業研究会（年間2回）を実施し、全教員で授業研究を推進する。	・授業交流（授業参観1回以上）の充実。ビデオによる授業交流サポートも含む。	急き時間を活用して、月に1～2回程度授業参観を行うことができた。授業参観後は、口頭で授業づくりや学級づくりについてのふり返りを行うことができた。 8ヶの教材研究会あるいことを徹底した。授業の段取り指示・設明・発問が少なくなった結果、授業がシンプルになり、児童の思考や学習の世ルがスムーズになった。 黒板・国語のデジタル教科書は使用しているが、効果的に使うことは難しい。黒板に意図が掲げつ知いの中で、動画や必要に応じて使っている。 特別支援教室の子つの目点の中の「傾注化」「見覚支援」「見通しもつ」に力を入れて授業を行った。	B	B	・授業を見合うことは有意義だが、時間調整が難しいので、空いているときに気軽に見合えるようにする。 ・板書写真の撮影・共有・報告（校内研修）の実施（学期に10枚以上） ・弱点克服のための授業を中心に公開する。	・授業動画を撮影し、見直せることに効果が期待する。授業動画を見て改善点があれば改善していただきたい。 ・キーボード講習（秋り迷しの大切さを分かっているうで安心している。貸間(Q)に回答(A)をキーボード入力し文字変換を正確に行い、出力（アウトプット）することが、プレゼンテーションの基礎であることに気づかせてほしい。
		・クロームブックやデジタル教科書の活用、ICT活用の充実を図る。 ・タブレットを活用した授業実践 （活用目標：週2単位時間以上） ・「授業はよくわかり、勉強をがんばりたい。」 （児童アンケート目標値：95%以上）	児童アンケート 授業はよくわかり、勉強をがんばりたい(92．5)% 「使う事が目的にならないように」という事を意識して活用を進めた。今後も、児童が意欲的に学習に取り組めるようなICTの活用を進めていきたい。 classroomなどでは振り返りや宿題をたくさん出すことに有効に活用できた。 データとして残るので、教師も児童も後で見返せるため学習のつながりもできた。 待ち時間でのキーボード練習にも熱心に取り組む児童が多く、ストレスなく教師の質問に子どもたちは意見を書くことができた。	B		・職員間での使用格差が生まれないように、他の職員への伝達を行う。 ・子どもたち同士の会話や話し合いにつながるようなに接げも考えていく。 ・総合的な学習の時間を含め、整理・分析の過程での活用を目指す。	
	【読書活動の充実】 ○読み取る力を育成するために、本に親しむ機会を増やす。委員会活動等を工夫するとともに、家庭とも連携して本の好きな児童を育てるような読書活動を推進する。	・各学年の読書目標を立て、朝読書や親来家族読書、長期休業中の親子読書を実施し、読書の習慣形成を図る。 （学年目標、親子読書実施率目標値：80%）	特別な読書指導は、十分できなかった。高学年児童は目常的なプラスアルファの仕事が多く、「読書」の優先順位が下がってしまった。 読書ビンゴを楽しむ低学年の姿が多く見られた。 お道具箱の中に本を優き、常に読める環境を整えた。 国語や総合の学習で本を読み、本の情報をもとに文章を書く活動を行った。	B		・児童同士の読み聞かせやタブレットを活用したブックトークなどを取り入れていく。 ・各学年の貸し出し幅目を設定する。	・聞いてめくるくらいのスピードでも読書と言える。ゆっくり読めば本一冊分が把握できるとは限らない
	【運動に親しむ探究・づくり】 ○運動を好み、進んで運動に取り組む児童を育てるために、個人の記録更新を目標とさせたり、諦めないで最後までやり抜く支援をしたりすることで、心身の健全な発達育成に努める。 ○体育的行事の工夫や器械体操・水泳・陸上・持久走・なわとび運動等へ取り組む期間設定を行うことで、学校全体でバランスのとれた体力向上に取り組む。	・児童が日常的に楽しんで活動できる雰囲気・場づくりに努め、友達とともに運動や遊びに親しもうとする意欲を高める。	学級内で外に近びにくいように声をかけたり、全員で遊ぶ企画を提案したりするなどした程度で、大きな取組はできていない。 運動は好きな児童が多いが、勝敗に拘るか全トラブルになったり、ゲーム後に悪感や文句をいう様子が強かった。 休み時間や体育の時間を通じて、友だちと関わりながら取組めるように時間や場の設定をしたこと、ゲームのルールを守りながら上手に取り組むことができる児童が増えた。	B		前学年までに行った学習も取り入れてスモールステップでの学習を進めると共に動画撮影等、ICT効果的に活用し、友だちのアドバイスを聞いて運動への意欲を持続できるようにする。	・勝敗に拘るのはなぜか？ゲーム後に悪感や文句を言うのはなぜか？を考えることが大切であると考える。
		・自分の目標を持ち、最後まであきらめずに真剣に取り組むことができる児童を育てる。	水泳、陸上、持久走など、学校全体として取り組むことができた。しかし、児童に記録が向上していく心地よさを感じさせるまでの指導までは出できていない。 水泳、陸上、マラソン等に対して、自分の目標をもって、自分の記録を向上させようという意欲を強化出来ていない。 チャレンジカードを用いたり、レベル別にコースを作ったりなど、児童が意欲的に体育の学習ができるように取り組んだ。 学習や持久走の始めに自分の目標を立てて取り組むことで、目標に向けて努力する児童が増えた。	B		水泳、陸上については、職員全体での研修を行う。	
2　豊かでたくましい心の育成	【学級集団づくり】 ○思いやりや支え合い、相互理解の大切さを伝えながら、一人一人の居場所のある学級集団づくりを進める。 ○日常的に子ども同士の思いをつなぐ指導・支援を行う。 ○道徳・人権学習の充実を図る。	・「学校に行くのが楽しい」という項目の満足度を上げる。 （児童アンケート目標値：90%）	児童アンケート 「学校が楽しい」(95%) 教師主導の学級経営ではなく、児童の思いに寄り添いながら学級経営を行うことができた。その成果として、クラス全体の雰囲気が明るくなり、学習や行事に対しても前向きに取り組める集団として成長している。 授業中や休憩時の時間、トラブルがあったときなど、クラス全員で一人の気持ちを考えるようにしたり、どうすればよいかなど今後の行動について考えたりした。	A	B	i-checkや学校生活アンケートでは、疎外感を感じている児童が数名いるので、目に見える実績だけで判断せず、様々な視点から学級の様子を観察・分析し、児童にとって居心地の良い学級を作っていきたい。	・「学校が楽しい」95%は満足らしい。
	【人間関係力の向上】 ○異学年との交流の中で、人間関係構築力を養うとともに友達関係の幅を広げさせるため、多様な縦割り班活動を計画する。また、リーダー性を養うための時と場所を意図的に設定する。	・縦割り班などの活動内容を工夫することにより、楽しさややりがいの向上を図る。	定期的に縦割り班遊びを計画することができた。教別は計画に多くの時間を要していたが、2学期後半には、ほとんどの班が10～15分程度で計画できるようになった。遊びの様子も、とても和顕気がよく、取組として成長を上げている。 下学年のお世話をすることで、自分たちがリーダーシップを発揮することが上手くいくことにつながることに気づく子が増えた。	A		縦割り掃除で上級生、下級生の役割を確認し、掃除を一生懸命する気持ちよさを経験させていく。 3学期の土曜授業時のリーダーや6年生を送る会の運営を通してリーダー性を養っていきたい。 現リーダーの6年生の姿も認めながら、それを支える5年生の活躍の場を設定し、次のリーダーとしての力を育成していく。	・リーダーとは？　リーダーシップとは？が理解できればそれでよい。だれもがリーダーになれるわけではないことを学ぶのも人間関係力の向上である。
	【自己肯定感・社会性の育成】 ○地域学習等の多様な体験活動や特別活動などの活性化により、個々の達成感や自己肯定感を高める。 ○地域と協働した教育活動や学校支援ボランティアの招聘を積極的に進め、適切な言葉遣いや正しい礼儀を身に付けるとともに、豊かなコミュニケーション能力を育てる機会とする。	・多様な体験活動や委員会活動などで、児童同士のプラス面の関わりを増やすことで、自己肯定感や他の児童のよさを認めようとする心情を育てる。（児童アンケート、作文、日記、感想等から児童の思いを把握していく。） ・「自分にはよいところがある。」 （児童アンケート目標値：90%以上）	児童アンケート 自分にはよいところがある(71)% 体験活動については、ほとんどできていない。しかし、帰りの会では毎日、1日の学校生活の中で見つけた、友達のよい所を発表し伝え合う時間を取ることで、児童同士のプラスの関わりは増やすことができた。 朝のあいさつ運動、衛生検査の呼びかけなど自主的な取組ができているが、次のステップへの改善の力は弱い。 主体的な活動は多くはないが、子どもたちに任せて考えさせてやることが増えた。i-checkの結果や教育相談から子どもたちの達成感が感じられることが多くなった。 あのねっとうや、行事の振り返りなどで、自分の頑張ったことや成長を発表したり書いたりすることで、自分自身の成長を実感できるようにした。 日常的に、児童の細かな成長を言葉にしてフィードバックするようにした。 友だちの良いところみつけを行い、可視化することで友だちの良いところに目を向ける児童が増えた。 家庭に連絡帳や通信等で成長した点や努力した点を伝える事で、学校内外で認められた存在であることに気づけるようにした。	B		友だちの良いところを認めると共に、自分自身や友だちの長所も見えるようになってきている。 一人一人のよさや個性を認める教師気作りや道徳教育を続けていく。 SSBの取り組みを続けることで自己肯定感を高めていく。学校だけでなく家庭との連携で自己肯定感の高まりをめざす。	・「自分にはよいところがある」の割合を上げ、良いところをもっと伸ばしてほしい。 ・あいさつはされた人が賞賛してくれることがある。先手必勝という印象的もあり、後手必勝だわけは先手と、あいさつでは勝ちに拘ってほしい。
		・地域の方との交流などを通し、あいさつや礼儀などを身に付けるとともに、コミュニケーション能力を高める。	あいさつについては、力を入れて取り組むことができなかった。 お手本になるような児童を賞賛したり、場面ごとにあいさつの仕方を確かめたりした。	B		運営委員会のあいさつ運動の効果が見られ、自分から大きな声であいさつできる児童が増えてきた。今後も継続していく。	
	【生徒指導・教育相談の充実】 ○ふりかえりアンケート等の活用を図るとともに、個々の子どもたちに寄り添い、子どもの変化や思いを受け止めながら、トラブルの未然防止や教育相談の充実を図る。 ○いじめの積極的認知、組織的な早期解消に努める。	・「相談できる」「認めてもらえる」という満足度の向上を図る。 ・「学校には相談できる先生がいる。」 （児童アンケート目標値：90%）	児童アンケート 学校には相談できる先生がいる(70)% アンケートだけでなく、児童の様子を観察し、時折、教育相談も行うことが可能だ。しかし、目標値の90%には達していない。	B		生活アンケートを定期的に行ったり、学級担任やスクールカウンセラーによる教育相談も行ったりして、教育相談の充実に努める。今後も児童との心理的距離をより縮めていく。	・相談できる先生がいることは安心できる。相談内容を充実する話題があれば、いじめられない組織づくりも可能と考える。
3　15年間学を見通しした育ちと連携	【15の春プロジェクトの推進】 ○保幼小中連携の強化を図り、一貫教育を視野に学びと育ちが「つながる」教育活動を積極的に推進する。 ○日常的な情報共有や相互理解の促進を図る。 ○中学校区の特別支援教育推進体制の強化を図る。	・就学前教育をふまえながら、園との連携を深める。 ・小中一貫教育に向けた取組や指導体制づくりを推進する。 ・特別支援教育部会を活性化させ、情報共有及び校園が連携した支援を進める。	中学校での学びの時間（英語）が有効に機能していないように感じる。移動の時間や授業時間の短縮など、小学校としてはデメリットがある。 小中連携の目的が共通理解されていない。 夏の保育研修を通して、今後入学してくる園児の様子を知ることができた。	B	B	中学校で学ぶよさや魅力が感じられるプロジェクトになるように、児童や生徒の発想や意見と取り入れ、児童生徒が主体となるものに見直していく必要がある。 学びの時間のある火曜日は5、6年生の時程を特別に変更する。	・学びの時間（英語）を有効に機能させるのはハードルが高いように感じる。中学校での英語学習に向けて不安なく学習が始められるように工夫してほしい。
	【発達段階に応じた力の育成】 ○「学びと育ちの連携表」を指標として、学校と家庭が連携し、各学年の発達段階に応じた力の育成を進める。	・実態に合わせて「連携表」を見直し、各項目において、低・中・高それぞれの段階に応じて育成すべき力を身につけさせる。	学びの連携表は年度当初に確認したきりで、それ以降は意識できなかった。 意識すべて、子どもたちににも教員にも浸透していると は言いにくい。 「連携表」を確認しながら進めることで、現状の課題や目指すべき姿が明確になり指導しやすかった。	B		合同研修会の中で意見を出し合い、子どもの実態に合わせてプロジェクト自体を学校園の教職員が総がかりで再構築する。 あいさつ・返事・挨チャイムスタートにしばると自分自身も分かりやすくすともたちへの取り組みもしやすい。	・学校と家庭が、「可能性に満ちた少年少女であることの共通認識の基に連携表を活用することが望ましい。
	【キャリア教育の充実】 ○自己の夢やめあてに向かって、最後まで努力する児童を育てるため、活動ごとに具体的な目標を立てさせ、それに基づいた支援を行っていく。	・現状より少し高めになるような目標・めあてが設定できるように支援するとともに、それに向かって最後まで努力しようとする子どもを育てる。	意識して取り組むことができなかった。 学期末のキャリアパスポートの記入のみ。	B		園児と児童、児童と生徒の交流を増やし、活躍する先輩への憧れや入学への明るい希望を持てるようにする。 地域の大人（関係機関や人材）をもっと活用する。 特別活動や総合的な学習の時間を生かして、子ども達が地域へ発信（進出）する機会をつくり、より良い地域づくり一貢献しようという心情を育てる。	・地域の人材をもっと活用し、自己の夢やめあてに向かって、最後まで努力する児童を育てていただくことを大いに期待する。

令和４年度　美作市立勝田東小学校　学校評価書（　A：目標を上回った　　B：ほぼ目標通り　　C：目標を下回った　）

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価			学校関係者評価
			達成状況	評価	総合評価	
1.確かな学力の定着と向上	○ユニバーサルデザインの視点をもとに、「主体的・対話的な深い学び」をめざした授業改善。	・目的に応じて根拠や理由を示しながら自分の考えを伝えることができる。「(低) 自分の考えをわけまで話す」「(中) 考えを言ってから理由を話す」「つなぎ言葉を使って話す」「(高) 考えを言ってから理由を話す」「相手の考えを取り入れたり比べたりして話す」　学校評価アンケート肯定的回答　85%	児童アンケート：7月85%、12月85% 2月95% 主体的な学びに向けて「話す（伝える）力」の育成に取り組み校内研修で児童の伝える力や児童の発言をつなげる教師の発問や問い返しなどについて検証を継続して行った。月目標を全校で取り組み、反省を翌月につなげるサイクルで実施した。指導者の意識の高まりと同様、児童も日々の発表から伝える他者を意識すること、自分の考えの根拠の大切さについて意識が高まっている。	A	A	・小規模校であるが、ユニバーサルデザイン拠点校として本校が存在してるのは意義あること。外部の方にもその認識は浸透してきており、今後も拠点校として残ってほしいという声も聞く。
		・日々の授業で、意識的に視覚化・焦点化・共有化を行い、「授業がわかる」の項目のＡＢ評価が９０%以上である。	児童アンケート：　7月100% 12月100% 2月90%	A		
		・全担任が２回授業公開を行い、授業改善を進める。	実施できた。 ２回目は、岡大より講師を招聘し、全学年で中学校区に向けて授業公開した。	A		
	○児童一人一人の教育的ニーズ、学習課題の達成状況を把握し、個に応じた指導及び支援の工夫。	・取り出し指導を取り入れ、個々に合わせた授業の工夫を行う。	５年対象児童に国語と算数で行った。児童の実態や状況に合わせて指導内容の工夫を行っている。専門教科指導員は保護者との連絡をていねいに行い、家庭の理解協力を得ながら指導に当たった。指導や対応についての課題改善に向けて県の指導主事を招聘したり、こまめな電話連絡で情報共有したりし指導を受けたりしながら進めることができた。本児の自己肯定感の向上や落ち着いた学校生活に寄与できた。	A	A	・児童数が少ないことで評価が左右されやすい。%が正確な評価数値とはいえないこともあるので、来年度は人数で評価目標を立てる。 ・人数が少ないことによる良さを活かしてほしい。目が届く、個々のつまずきを把握しやすい、など。 ・タブレット学習は自分のペースでできるいいツールである。書かずに取り組める、というのはどうかとも思うが。
		・SSW、SC、外部機関との連携を図り、支援の工夫を行う。	SC の限られた日数の中で年間計画を作成し児童の教育相談の実施、心理教育の一環として授業を実施した。個別の支援が必要な児童の母親支援として SSW との面談の実施等関係作りを進めた。	A		
		・支援が必要な児童の個別の支援計画を見直し、保護者・関係機関との連携を図り、ケース会議を実施する。	個別の支援計画の見直しを年度当初に行った。保護者・病院等関係機関との連日頃からの連絡を密に取り、年間計画に沿って拡大ケース会議を計画的に実施し、めざす方向性の確認やそれぞれの立場における取組についても共有できた。個々の支援について全職員で話し合い、進めている。	A		
	○落ち着いた環境の中で一人一人の力を伸ばすための「学習規律の定着」。	・短期目標を設定し、振り返り、改善を行う。	月目標をもとに学級目標を設定し、毎月児童朝礼で振り返りを発表している。学級の実態に合わせて、取り組むことができた。また、今年度重点とした「根拠を明らかにした発表」については、職員も意識して取り組み、児童にも意識づけを行うことができた。	B	B	
		・「授業中話をしっかり聞いて集中してがんばっている」のＡＢ評価が８０%以上である。	児童アンケート：7月95%　12月100% 2月100%	A		・もう少し大きな声が出るようになるといい。ただ、周りの子が気を遣って、声の小さな子が発言する時には特に静かにして聞こうとしているのは勝田東小だからこそ。
	○「読書の推進」	・読書目標冊数（1年100冊、2年100冊　中100冊、高80冊）を達成した児童が90%以上いる。	朝読書の時間設定、長期休業中10～15冊の貸し出し、隙間時間の活用、市立図書館から２ヶ月毎120冊の貸し出しによる学級文庫の充実、計画的な図書購入による学校図書の充実（図書標準率101%）、図書環境づくりの工夫、集会活動、本をたくさん読んだ児童の表彰、カードを使った取組など行い、読書目標冊数はほぼ達成した。 １年生　100%　２年生　100% ３・４年生　60% ５・６年生　100%	A	A	

		・ファミリー読書やおすすめの本の紹介を全児童で継続して行う。	年間計画にそってファミ読を推進した。長期休業中全家庭が取り組んでくださった。子どもの選書の変化を喜ばれたり、読書を通したふれあいを図っていただいたりした。今年度もコロナ感染拡大防止のため給食時の本の紹介は行わなかったが、文化委員会による集会活動、日常活動を通して工夫した取組がしっかりできた。家庭学習時間に１０分間の読書タイムも定着できている。	A		
	○自主的な学びにつなぐ「家庭学習の習慣化」。	・「各学年めやすの時間」を１００%の児童が達成している。	家庭学習の各学年の目標時間はクリアできている。	A	A	・子どもは興味が沸く、沸かないで取り組み方が違う。したくないことでも頑張ってすることを教師が認め褒めてくれることで達成感も持てる。それが自己肯定感につながる。
		・自主学習を高学年は１週間に３日以上、低・中学年は２日以上取り組んでいる。	自学ノートは内容の充実も見られ、多くの児童が意欲的に取り組めた（のべ５５人）。職員間で継続的な指導や内容の共有、称揚をしながら取り組めた。掲示も短期の周期で張り替えをし、児童間での啓発にも効果的であった。	A		
	○朝学習や放課後学習等、個別指導の充実による基礎基本の定着。	・算数、国語の単元末のテストの平均が８５点以上である。	どの学年もできている。定着が不十分な内容については個別に指導を行った。	A	B	
		・国語・算数のたしかめテストの平均正答率が 80%（現学年）以上である。	目標値を十分クリアしている学年がある一方、目標値到達には厳しい学年もある。特に国語において基礎基本の定着に課題が見られた。個別指導を中心に学び直しの時間を設定し定着を図る。担任による個々の分析と共に、経年比較から学力向上のみられる学年や定着が図られている学年での取組等を共有していく。年度内に再度テストを実施し合格点をめざす。	C		
2．思いやりがあり、人間性豊かな子どもの育成	○互いの違いを認め合い、一人一人が大切にされる居心地の良い学級づくり	・児童アンケート「学校は楽しい」の項目の AB 評価が 90%以上である。	アンケート：7月 100%　12月 95% 2月 95%	A	A	・不登校がいないのはとても良いことである。学校が楽しい、と感じているのがすばらしいことである。
		・終礼等で児童の情報共有をし、児童アンケートとそれを基にした教育相談を行い、全職員で児童を見守り、いじめの早期発見を図る。	年間計画に沿って教育相談を実施できた。SC による全校児童の面談や心理教育授業も実施した。毎週金曜日の終礼で個々の児童の情報共有をし、支援体制をとった。	A		
	○異学年集団を生かしながら、互いに助け合い、認め合う集団づくり。	・異学年が合同で行う学習を設定するなどし、優しい言葉かけができる。	校外学習や集会、運動会、学習発表会など関わりの中で他者意識の向上や一人一人の力を伸ばすという意図を持って行った。また、教室でも異学年でのペア学習を取り入れ、有効であった。	A	A	
	○全校での取組による気持ちの良いあいさつ、返事の習慣化。	・児童アンケート「あいさつをしている」の項目のＡＢ評価が９０%以上である。	アンケート　7月 90%　12月 85% 2月 85% 運営委員会があいさつ運動を行ったり、あいさつ名人の取組を行ったりした。相手を意識した気持ちのよいあいさつができる児童は固定的で、学校全体のものにはなっていない。	B	B	・挨拶がよくできる子もいるが、そうでない子もいる。地区内でも差がある。
	○感謝と肯定的な声かけを大切にし、自己有用感と挑戦する気持ちの育成。	・児童アンケート「先生はがんばったことを認めてくれる」の項目のＡＢ評価が、９０%以上である。	アンケート：7月 90%　１2月 90% 2月 90% 「あまり思わない」と回答した数名の児童への対応検討が必要である。一人一人と確かな信頼関係を築くことが大切である。	A	A	・子ども同士が気を遣い合える。どの子も平等にかかわろうとし、相手の子に合わせ、自然にかかわれるのは素晴らしい。
		・「自分には良いところやがんばっていることがある」の項目のＡＢ評価が、９０%以上である。	アンケート：7月 85%　12月 100% 2月 100% １学期は目標数うちを下回ったが、回を重ねるごとに数値が上がり１００%となったことは１年間の取組の成果である。	A		
		・一輪車やなわとびなど、挑戦できる取組と評価を継続して行う。	全校で、一輪車検定やマラソン、チャレンジランキング、運動マスターに取り組めた。全校で詩文暗唱に取り組み、学習発表会でも努力の成果を発揮できた。	A		
	○家庭との連携によるメディアコントロール力の向上と基本的な	・ゲームやテレビなどに触れる時間が１時間以内の児童が 80%以上である。	年間４回の家庭学習チェック週間中の平日メディアにふれる時間が 30 分未満の児童は平均９２%であった。平日１時間以内の児童は９９%であった。	A	A	

	生活習慣の確立	・メディアコントロールに関わる保護者向けの研修を行い、家庭でのルールづくりを行っている家庭が８０％以上である。	家庭でのルール作りは、「東小ルール」の周知、各家庭のルールを掲示し交流を図った。100%ルールが作られており、年４回の家庭学習チェック週間にも活用できた。	A		
		・家庭学習チェック週間を実施し、家庭に情報提供を行う。	親師会と家庭学習チェック週間の取組や結果分析、課題解決に向けた取組を相談しながら進めることができた。	A		
	○全校体育の充実と外遊びの奨励による体力づくりの推進	・一輪車乗りや外遊びの奨励、マラソン、体力テスト結果の分析をもとに取組を行い、児童の運動量の確保を行う。	県の運動推進事業「運動マスター」の取組を行い全員がマスターとなった。休み時間は全校児童が外に出て遊んだり体を動かしたりできだした。ロング昼休みの設定や全校遊びの実施など、運動量の確保と仲間つくりの促進に努めた。一輪車検定やチャレンジランキングの取組、マラソンの実施など年間計画に沿って体作りを行った。	A	A	
3.開かれた、信頼される学校づくり	○「報告　連絡　相談　確認　記録」による職員の共通理解。	・日頃から児童の様子を職員で共有し、何でも話せる職員室にする。	全職員で全児童の育ちを支援することを共通理解し、職員室が児童や授業について何でも話せる職場になっている。金曜日の終礼では細かな情報確認を行うことができた。	A	A	・ユニバーサルデザイン拠点校であることをもっと広めていけたら良い。 ・家庭が安心して学校に我が子を預けられる関係ができているのが一番である。
		・生徒指導、ケース会議等の記録をきちんと残す。	専用フォルダーに保存し、指導や児童理解に生かした。	A		
	○地域・保護者と連携・協働した教育活動の推進。	・支援会議や親師会を活用して、地域・保護者と連携を深め、取組を行う。	コロナ感染拡大防止のため中止や内容を縮小した行事が多かったが、草刈り等の環境整備や行事の準備等で、今年度もしっかり協力していただいた。子どもたちのためにいつでも支援くださる強力な体制（支援会議）があり、日常的に相談させていただくことができきている。学区内のほぼ全家庭が、本校の賛助会員になってくださっていることも心強い。学校便りや親師会広報誌は学区全戸に配布できた。行事や調べ学習の成果が地元 TV や新聞で紹介される機会を持つことで、地域の方も喜んでくださり、広く情報発信につながった。保護者会の研修会や家庭学習週間の取組、資源回収は予定どおり実施できた。運動会も親師会の協力を得て実施できた。	A	A	
	○学校だより、学級通信、HP 等による保護者・地域への情報発信。	・保護者アンケート「教育方針や子どもの様子をよく知らせている」の項目 AB 評価が90%以上である。	教育方針、子どもの様子については AB 評価が 88%であった。日常的な保護者との連絡確認や情報共有を今後も積極的に行っていく。	B	A	
		・いじめ問題対策基本方針について親師会総会等で保護者に周知し、保護者、地域との連携に努める。	親師会総会で、資料を提示して説明を行い、HP にも掲載している。	A		
		・ホームページを更新して情報提供を図る。	その都度更新できた。	A		
	○連絡帳等の活用による保護者との対話の充実	・「子どもについての相談に真剣に応じてくれる」の AB 評価が８５％以上である。	AB 評価が 94%であった。今後も、一人の子どもを学校と家庭と協力して育てていきたい。	A	A	
		・「子どもの良さや努力を認めてくれる」の AB 評価が８５％以上である。	AB 評価が 100%であった。引き続き、児童の頑張りを見つけ認めるとともに、保護者にも伝えていくように努めたい。	A		
	○「かつたっ子１５の春プロジェクト」を軸に、小学校との連携、園・中学校との接続を意識した教育活動の推進。	・ひまわり園・勝田中学校・勝田小学校と連携する活動を充実させる。	各部会の担当者が集まって、有意義な実践交流や情報交換ができた。	A	A	
		・各部会で話し合いが行われ、充実した活動ができる。	小小連携による５・６年の英語の学習、水泳・陸上記録会、中学校との合同クリーン作戦や集会も有意義であった。ひまわり園では、職員の体験研修や子ども同士の交流を行うなどして連携を深めた。来年度も連携をさらに充実させていく。	A		

令和４年度　美作市立大原小学校

学校評価書

2023/3/13

学校教育目標　　ハツラツ元気　　ドキドキ感動　　～自らの考えをつくり、協働しながら活動し、社会に貢献できる素地を育てる～

・数値はアンケート等で数値化できるものにする。　A　90%～　B　80%～　C　～79%

・数値はアンケート等で数値化できるものにする。

経営の柱	領域	重点項目	成果基準（児童）	評価 1学期末	評価 2学期末	評価 3学期末	備考	具体的方策	努力基準（教職員）	評価 1学期末	評価 2学期末	評価 3学期末	備考	来年度へ向けた改善策等
「学び力」心を育てる授業づくり 全体・校内・校外 具体的なめあてと見通しをもって取り組ませる 達成感しさいや学びの成果を自覚させる	【学習指導】	学級構えづくり	学習の準備を整え、チャイムの始業を守っている。	A	A	A	1.2	授業（週）目標を設定し結果を掲示することで、児童と教職員の意識の向上を図る。	意識的に指導や評価をするとともに、自身がその手本となるようにしている。	A	A	A	1～4	学級構えは落ってきている。重点項目から外す。学級目標の掲示は継続し、振り返りのしかたについては、学年に応じた見直しを図る。
			はじめとおわりのあいさつをきちんとしている。	A	C	B	3	あいさつや礼の仕方を具体的に示す。	共通指導事項を意識した指導をするとともに、自身がその手本となるようにしている。	A	C	A	5,6	
			相手を見て話を聞いている。	A	A	A	4	授業（週）目標を設定し結果を掲示することで、児童と教職員の意識の向上を図る。	意識的に指導や評価をするとともに、自身がその手本となるようにしている。	A	A	A	7,8	
			反応しながら話を聞いている。	A	A	A	5	「話し合い言葉」や「反応例」を具体的に示す。	上手に反応できている児童を称揚してモデルとして示したり、自身が手本となるようにしたりしている。	A	A	A	9，10	
		学力の基礎を育てる	算数・漢字チャレンジに合格している。	B	B		結果	年間計画に実施日を設定し見通しをもって取り組むようにする。合格シールにより成果を見える化する。	実施日に向けて重点的に指導する。必要に応じて個別指導を行っている。	B	B	B	11.12	個別最適な学びになるようシステム改革（重点化）
			学年×１０分、家庭学習に取り組んでいる。★	C			6～7	学年に応じた自主学習の指導や提示による紹介を行い、家庭学習の価値付けを図る。	自主学習の指導や紹介を行うとともに、連絡帳を活用して家庭学習の時間を把握し、内容の調整を図っている。	C	B	B	13～15	自律的な学び・授業と家庭学習との連動とし重点化
			授業と関係のある自主学習をしている。		B	B	8	予習的課題の導入や授業と関係のある宿題を出す、自学ネタを共有する。	予習的課題や授業と関係のある宿題を出したり、自学ネタの提供や共有をしている。		C	C	23.30.34	
			自分の考えをもち、表現（記述・発言）している。	A	B	B	9	既習事項や（算数）用語を掲示し、活用させる。	単元時数の６割以上に自分の考えをもち表現させる場面を設定するとともに、既習事項を活用し解決の見通しをもたせている。	A	A	A	18, 27, 31, 16, 25	掲示物の見直し（算数）
		心を育てる授業づくり	自分と友だちの考えを比べながら学習している。	A	A	A	10	交流の際に教科的な見方・考え方の視点を与え、考えを比較させる。	交流の際に教科的な見方・考え方の視点を与え、考えを比較する指導をしている。	B	A	A	20, 27, 31 28.	予習的課題の促進
			一人一台学習機を活用して学習している	A	A	A	12	単元計画の中に活用場面を設定する。	単元計画の中に活用場面を位置づけるとともに、効果的な活用方法について情報交換や自主研修を行っている。		B	C	※※	単元計画にICT活用の項目を入れる
			学び合いによる学習の成果を自覚している。	A	A	A	11,13～17	視点を与えて「ふり返り」を書かせる。	視点を与えて「ふり返り」を書かせている。	C	B	C	22, 29, 33	3つの心・9つの力との連動
		学習支援	安心して前向きに学習に取り組んでいる。	B	C	B	20	学習に関する校内統一ルールを児童と職員に周知徹底する。	校内統一ルールに則って授業を行い、必要に応じて修正・調整を図っている。	A	A	A	40	3つの心を育てる目的で見直しを図る
								のびすく会を定期的に行い、個別の教育支援計画等に基づき、個に応じた支援を連携して行う。	計画通り会を設け、共通理解のもと個に応じた支援を連携して行っている。	B	A	A	41,42	個別最適な学びに（重点化）
「協　働」スマイルプロジェクト キャリアパスポート活用 具体的な目標と見通しをもって取り組ませる 達成感しさいや自己有用感を自覚させる	【学級経営】	生活規律	「３つの『あ』」『あいさつ』『あんぜん』『あとかたづけ』を意識して生活している。	A	B	A	1～4	生活（月）目標を設定し結果を掲示することで、児童と教職員の意識の向上を図る。	意識的に指導や評価をするとともに、自身がその手本となるようにしている。	A	A	A	1～7	3つの心・9つの力と連動・目標の一本化
		認め合う集団づくり	互いの違いを認めたり、友だちのよさに気付いたりしている。	B	A	A	5～7	スマイルタイム等において、学級や縦割り遊び等の機会を設定する。	児童が協力して活動する場を意図的に設定している。	A	B	A	8，9，11	3つの心・9つの力のさらなる活用
			色々な友だちと関わり、好き嫌いにとらわれず協力して活動している。	A	A	A	8.9		ねらう児童の姿を意識して、励ましたり認めたりする言葉かけをしている。	A	A	A	10.12	
		リーダー育成	高学年としての自覚をもって、自らの役割を果たそうとしている。（５・６年）	A	A	A	10.11	事前指導を行ったり、事前準備の時間を確保したりして、児童が見通しをもって活動できるようにする。	事前指導を行い、活動の見通しをもたせるとともに、ねらう児童の姿を意識して、励ましたり認めたりする言葉かけをしている。	C	A	B	13.14	★
			リーダーとしての役割の大切さに気付いている。（全学年）	★			★	班活動、学級活動、低中高学年団活動等において、リーダー的な役割をもたせるようにする。	リーダー的な役割をもたせる場面を設定するとともに、リーダーの役割の大切さに気付かせたり、価値づけたりする言葉かけをしている。	★			★	内容とアンケート項目を検討
		地域単位の心												
			学校の一員として、自分から進んでできることをしようとする。	A	A	A	13	生活目標「あとかたづけ」と関連付けて、日常的な取組内容の具体を校内で統一する。	日常的な取組を児童と一緒に行うとともに、その行為を価値づける言葉かけをしている。	B	A	A	15～17	3つの心・9つの力と連動・目標の一本化
		心と体の健康	規則正しい生活習慣を送ろうとしている。	B	A	B	14.15	生活リズムカードを活用し、定期的な生活習慣の見直しを図る。	正しい生活習慣の指導をしている。	B	B	B	18	
			楽しく学校に通っている。	A	A	A	16	スマイル（生活）アンケートや教育相談を計画的に行う。	児童の実態把握に努め、必要に応じて教育相談等を行っている。	A	A	B	19	
「挑　戦」チャレンジプロジェクト キャリアパスポート活用 具体的な目標と見通しをもって取り組ませる 達成感しさいや学びの成果を自覚させる	【学級経営】	チャレンジタイム	あきらめることなく努力を重ね、自らの目標を達成しようとする。	C	B	B	1	スモールステップで達成目標が示されたチャレンジカードを活用する。	目標をもたせ、励ましと称賛の声かけを行うことで、継続的な取り組みとなるようにする。	A	C	A	1	目的見直し？個別最適化？
		企画力・実行力の育成	自分たちで発案したことを主体的に計画・実行している。（５・６年）	A	A	A	2	児童の考えをもとに、児童が主体的に取り組めるようにする。（委員会・たてわり活動）	児童が企画・提案できる場の設定をするとともに、児童が主体となって実施できるようサポートをしている。	B	A	A	2.3	自治的活動に
		体力向上	自分の目標達成に向け、進んで運動に取り組んでいる。	B	B	B	5.6	いきいき☆岡山っ子運動習慣カードの期間に合わせて、学期に１度体育チャレンジの取組を行う。体育掲示板を活用したり、目標記録や結果について伝えたりして意識しやすくする。	目標に向かって取り組む姿を認め、励ます言葉かけをしている。	C	C	C	4～7	他の取組との連動
		地域交流・貢献	地域に対して興味関心をもち、自分から関わろうとしたり役立とうとしたりしている。	B	B	C	8	総合的な学習の時間を中心として、地域交流や発信の場を計画的に設定する。	事前事後の指導を計画的に行い、自分が地域とどのように関わるかについて考えさせたり発信させたりしている。	C	C	C	10.11	社会に開かれた教育課程
	【学習指導】	読書力向上	本を読み、感想をもっている。（スモールステップでの合格とする）	C	C	C	9～11	司書と連携して対象書籍を複数冊準備し、学級での貸し出しをすすめていく。	水曜日読書チャレンジの時間を有効に使い、感想に対しチェックやコメントを行う。	C	C	C	8，9，11	目的の見直し
支える基盤 心を一つにして同じ方向を向く	【経営】	環境の整備						校内美化に努めるとともに、児童のがんばりが見える掲示を計画的に行う。	担当場所を中心とした校内美化と計画的な掲示を行っている。	B	A	A	1～3	職員の主体・協働・挑戦
								ねらいやコンセプトを共有して定期的にヘクトル合わせや意見交換を行い、組織的な教育活動を行うようにする。	計画的にCM委員会や全体会を行い教育活動の方針について共通理解を図るとともに、１人ひとりが役割当番としての役割を果たしている。	B	C	C	実施中・11	
		職員間関づくり						校内研究の取組を実践し、公開授業や授業参観を行う。	校内研究の取組を進んで実践に取り入れ、計画的に授業公開を行ったり、授業参観をしたりしている。		C	C	4～7	
								日常的に情報交換ができる環境を整える。	日常的に情報交換を行い、報告・連絡・相談を心がけている。	A	A	B	8～10	
		家庭・地域・関係機関						組織的に連携のシステムを整える。	定期的に会を開催し、担当はその内容について全体に共有している。	A	A		実施中	
		学校評価の充実						評価計画に基づいて評価を行い、改善に役立てる。	評価計画に基づいて評価を行い、改善に役立てている。	A	A	A	実施中	

令和４年度　美作市立東粟倉小学校　学校評価書　別紙

（A：目標を上回った　B：ほぼ目標どおり　C：目標を下回った）

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（最終）			外部評価
			達成状況	評価	総合評価	
豊かな心と実践力の育成 ～やさしい心と「やってみたい」という意欲にあふれた児童の育成～	○人権教育やよりよい集団づくりの推進を図る。 ○特別の教科「道徳」の推進と充実を図る。 ○音楽・美術・書道等芸術教育の推進による豊かな心と情操の育成を図る。	○友だちのよさに気づく取組を全校ならびに各学年で実・施し、友だちを大切にしようとする意識が高まる。 ○様々な人権問題や命の大切さ等について学び、実践する態度が育つ。 ○年間計画に従い道徳の授業を計画的に行い、「考える道徳」が展開される。 ○閉校記念式典に向け、全校で合奏や合唱をしたり壁面飾りを作成したりする活動を通して、豊かな心情が育つ。	○今年度で閉校となり、令和５年度から大原小学校に統合される。そこで今年度、学校教育目標を「心豊かでたくましく、実践力のある子どもを育てる～『いきいき輝くこぶしっ子』」と改めた。少人数の生活から大人数の集団になっても自分の気持ちが言えたり、自信を持って行動できたりするたくましさを兼ね備えてほしいと願い「たくましく」という言葉を付け加えた。 ○昨年度に引き続き、お互いを認め合いいきいきとした学校生活を送ることができること、やさしい心が育ち成功体験が積まれることでさらに自己肯定感を高めることができることを目標として取組を進めてきた。具体的な取組の「やさしさあふれるハートフルロードを作ろう」では、児童会運営委員会を中心として友だちのよいところや自分が頑張ったこと、友だちにしてもらって嬉しかったこと等を短冊に書いて笹に吊るした。お互いのよさを認め合い、人権意識や自己肯定感・自己有用感が高まってきた。また、今年度は全校児童１７名で「人権カレンダー」も作成した。日にちと併せて人権に関する言葉や絵をかき、２階の廊下に掲示して毎日見られるようにすることで人権意識の向上を図った。 ○東粟倉小学校として最後の１年間。大原小学校との交流活動をはじめ、校歌合奏や閉校記念作品制作等閉校までの諸行事を年度当初に計画したスケジュールに従って取り組んできた。校歌の合奏は高学年は昨年度から練習を始め、低学年も今年度からスタートした。少人数のために音楽科の授業で合唱を経験することがなかなかできにくい状況にあるが、式典で披露する合唱曲「帰る場所」では２部合唱に挑戦し只今練習真っ最中である。さまざまな体験をすることで本校での良き思い出作りになるとともに、心豊かな児童の育成になっていると考える。	A	A	A
	○児童の主体的な活動の推進を図る。 ○キラキラ集会、文化や自然を知る地域交流学習の実施。	○進んで学習や行事に取り組み、自治的な力が身につく。 ○キラキラ集会や児童総会、委員会活動、学級活動等を通して、自分達のことを自分達で考え、解決していこうとする態度が育つ。 ○地域の自然や文化を知る学習を通して、郷土愛が育つ。	○６年生を中心に代表委員会や集会活動等で主体的に行動しようとする児童が増えた。特に委員会活動においては、今年度５年生の在籍数が０である為４年生２人も委員会活動に参画してきた。３つある委員会全てにおいて新たなイベントや取組を考案したり実施したりと、自分たちの学校を自分たちの手でよりよくしていこうという機運が高まり、活発な活動ができた。また、そうした良き先輩の姿を引き継ぎ、下学年の児童も意欲的に活動しようとする様子が各学級で見られている。１・２年生のクラスにおいても誕生日会の企画、運営を回を重ねるごとに自分たちの力で主体的に進めることができるようになるなど低学年でも自治的能力が育ってきている。今後も委員会活動や各種行事を通して、望ましい人間関係づくりと自己肯定感を高めるために、さまざまな取組を進めていきたい。 ○キラキラ集会では、各学年とも学習したことを堂々と全校の前で発表することができた。1・2年生は津田幸保講師から教えて頂いたリズムジャンプと跳び箱の技の披露を、3 年生は社会見学で出掛けた消防署と警察署で学んだことの発表を、4 年生は東粟倉小学校の歴史について調べたことを年表にまとめ、聞いている人が分かりやすい話し方で上手に発表することができた。6 年生は 3 年ぶりに宿泊を伴う修学旅行が可能となり広島での平和学習や楽しかった思い出を下学年に報告した。また、総合的な学習の時間にアマゴについての調べ学習を行い日名倉養魚場を実際に訪れてより詳しく教えて頂いた。今後も美作市や東粟倉のことを更に知り地域を愛する取組を進め、郷土を愛する心情を育てていきたい。	A		
	○あいさつ運動の定例化と推進を図る。 ○閉校にまつわる行事を通じての感謝の気持ちの育成。	○あいさつ「あいてを見て、いつでも、さきに自分から、つづけて」ができる。 ○東粟倉小学校ラストの１年間、地域の方々との交流を深める授業や行事、さまざまな活動を通して、愛校心や感謝の気持ちが育つ。	○今年度、生徒指導重点事項の一つに「すすんであいさつしよう。」を掲げたこともあり、あいさつの指導について週目標に設定する職員が増え、全職員で意識向上を図ってきた。また今年度も大原中学校区学びの連携事業生徒指導部会の重点取組として、大原小学校・大原中学校と共に挨拶運動強化週間を設定し取り組んだ（11/8 大原小、11/9 東粟倉小、11/11 大原中）。また小小連携で、Meet を使っての朝の会交流も学年ごとに行った。令和５年度からの大原小学校との統合に向けてもよい交流の場となった。 ○「学校教育についてのアンケート」では、児童の「自分から挨拶をする」の項目でよくあてはまるが 14/17、どちらかといえばあてはまるが 3/17 で全員が肯定的回答であった。粘り強く指導を継続してきた成果であると考える。保護者アンケートでは「自分から友達や先生、お友達、地域の方などに挨拶をするようにしている」の項目でよくあてはまるが 8/17、どちらかといえばあてはまるが 7/17、どちらかといえばあてはまらないが 2/17 であった。今後も自ら進んで先に挨拶する児童の育成を目	A		

			指し、継続的に指導を続けるとともに、地域の方々や保護者とも繋がりながら取組を進めていきたい。 ○9月17日（土）コロナ禍ではあったが感染対策を講じ、地域の方との交流を深めるとともに、感謝の気持ちを伝えることをねらいに掲げ、東粟倉小学校地域合同運動会を開催することができた。区長会を始め、みまさか商工会東粟倉支部をはじめ多くの皆様方のご協力により盛会に終えることができ、また子どもたちやOBの中高生、地域の方々の笑顔の輪が広がった。			
	○協働の大切さを知る勤労生産活動並びに縦割り班活動を進める。	○清掃活動・縦割り班活動では、めあてを明確にもち、高学年はリーダーとして、低学年はフォロアーとして活動ができる。 ○活動の振り返りを大切にし、達成感や成就感が持てる。	○縦割り班による清掃活動やそれぞれの学年においての野菜の栽培等の勤労生産活動を通して、協働の大切さや収穫の喜びを実感することができた。お世話になった学校を綺麗にして閉じたいという気持ちと、児童数の減少により特別教室等の清掃が不可能な現状から、今年度掃除ボランティアを募り、月に1回子どもたちと一緒に縦割り班掃除で普通教室等の掃除をした後、家庭科室や講堂等の普段掃除が行き届いていない場所の掃除をして頂いた。 ○さまざまな活動の終わりには振り返りの時間を極力設けるようにしてきた。6年生を筆頭に下学年もしっかりと振り返りができるようになり、自分の気持ちを皆に伝えることができるようになったことは本校の良き伝統として残された日々で継続していきたい。そして大原小学校に行ってもこの積極性を持ち続けてほしいと願う。	A		
学力の向上～「わかった」「できた」「やってみたい」が実感でき、主体的に学習に取り組む児童の育成～	○基礎基本の学習の定着と徹底を図る。 ○自らの考えを持ち、表現し、共に学び合う学習集団づくりを進める。 ○個に応じたきめ細かい指導と学年・学級・個人の学習課題の克服を図る。 ○読書の習慣化と図書の積極的活用を図る。	○個に応じたきめ細かな指導により、基礎基本の定着とともに、学習に対して「わかった」「できた」「やってみたい」の実感がもてる児童が増える。 ○文章をしっかり読み取り、自分の考えを持ち、それを文章に表したり、言葉として発したりすることの抵抗感をなくす。 ○読書の習慣が身につき、文章を読み取る力が高まるとともに、「情操的能力」を育む。	○基礎基本の学力の定着に向け、全学年において授業はもちろん、朝学習やドリル学習、学力調査過去問題、美作市統一算数検定、こぶしっ子各種検定等を利用して、個別指導と学習補充を行ってきた。また、昨年度までは夏季休業中に4回程度しか行っていなかった補充学習を今年度は県の主体的な学びの基盤づくり事業として6/8（水）から3/8（水）の水曜日計28回の放課後、希望者を募り行った。申し込んだ児童の数は12名で、自身が苦手としている単元のプリントや問題に熱心に取り組んでいる。 ○学校教育についてのアンケート調査の「授業は楽しくわかりやすいか」という設問に対して保護者回答では「よくあてはまる」等の肯定的回答をした保護者は100％の高評価であった。しかし、児童の回答は「よくあてはまる」が70％、「どちらかと言えばあてはまる」が18％、「どちらかと言えばあてはまらない」が6％、「あてはまらない」が6％であった。昨年度の肯定的回答が100％であったのに対し88％に落ち込んだ原因は何なのかを探り、学習への理解度や関心度を取り戻す必要がある。教材研究を重ね、子どもたちが「楽しい」「わかった」が実感できる授業づくりに励まなければならない。 ○前年度の全国や県の学力テストにおいて、無回答率が高く、条件付き作文において指示通りに書くことが出来ない児童が多いことを受け、毎日日記を書くことで、書くことへの抵抗感を少しずつ減らすとともに、児童と職員との良好な関係づくりを進める取組を行ってきた。初めは少ししか書くことが出来なかった児童も毎日こつこつと続けてきて、低学年においても書くことへの抵抗感がなくなってきた。また記述のまちがいも減ってきた。授業終末の振り返りや、各行事の振り返り等では、自分が思ったこと、考えたことを積極的に挙手し答える児童が増えてきたことも成果の一つと言える。 ○1人1台端末（クロームブック）を使っての授業や宿題等が本格化してきた。2学期以降タブレットの持ち帰りも開始した（最低週末1度は持ち帰らせることを職員で共通理解した）。コロナ感染等によりリモート授業を配信することもあった。タイピングの練習やタブレットドリルの活用等を今後も進め、基礎基本の定着を図っていきたい。このような継続的な取組が、学力向上につながっていくものと考える。 ○読書に関しては、図書委員会の熱心な活動により、週末読書の呼びかけや「お話コンテスト」「図書室キャラクターコンテスト」、季節に合わせた工作教室等の各種イベントの開催など、児童が生き生きと取り組む様子が随所に見られ盛り上がりを見せた。しかし、図書の貸出冊数の増加は今一歩であった。そこで出張図書館を設けたり、最後のイベントとして「みんなで本を借りてパズルを完成させよう」に取り組んだりしている。 ○コロナ禍で、給食時の黙食が未だに続いている。本校児童の課題である語彙数の少なさを克服するため、昔話のCDを流す取組を今年度も続けてきた。お話コンテストではこの昔話CDの影響を受けた児童もいた。読解力を高め、語彙数を増やすため、また、豊かな情操を養うためにも、今後も続けていきたい。	B	B	B

	○家庭学習の定着と習慣化、並びに保護者への家庭学習の意義の啓発。 ○自主学習の習慣化とその深化を図る。	○家庭学習時間（10分×学年）＋２０分以上が確保される。 ○令和４年度学校評価アンケート（保護者・児童）の「家で授業の予習や復習をしている。」の項目で肯定的回答が児童で９０％以上、保護者で８０％以上を目指す。 ○中学校のテスト期間を中心に生活習慣の見直しが図られる。	○全体的に家庭学習の習慣が定着している児童がほとんどであるが、未提出だったり完璧にはできなかったりする児童もいる。ノートやプリント等に丁寧に取り組み、まちがいはきちんと修正させるなど、課題を完全にやりきらせる児童を育てるため、今後も家庭と協力し徹底した指導をしていきたい。 ○学級懇談会やPTA役員会において家庭学習について（家庭学習時間、予習・復習・自主学習の内容等）説明を行った。児童・保護者への予習・復習についてのアンケート結果（肯定的回答）をみると、児童は100%、保護者は47%であった。児童には連絡帳を書く際、宿題の欄に予習・復習を記入させたり、次の日の学習内容を書かせることで予習してくることを考えさせたり、また、児童朝礼において家庭学習についての講話をしたりした成果がこの数字に表れていると分析する。保護者にはまだまだ浸透していないことが明らかになった。この状況をふまえ、家庭学習について、予習・復習の捉え方について、今一度説明し、子どもたちの家庭学習の様子をぜひ見ていただくよう呼びかけ、協力を求めていきたい。 ○自分の携帯電話を持っていると答えた児童の割合が令和３年度は35%であったが、今年度47%まで増えてきている。使用する内容としては、You Tubeや動画を見る、ゲーム、調べものをする、連絡等である。インターネット等に費やす時間も増えてきている。そこで、今年度は大原中学校区学びの連携事業健康・生活向上部会で取り組んできたメディアコントロール週間をしっかり活用することができた。生活リズムの確立は学力向上にもつながるので、今後も引き続き指導していきたい。	B		
	○授業改革、校内研究の推進、積極的な授業公開、外部講師を招いての協働的校内研究の推進を図る。	○令和４年度学校評価アンケート（教職員）の「私は子どもの思考力や判断力、表現力を豊かにし、確かな学力を保障する授業の改善と創意工夫のある実践を行っている。」の項目で全職員が「あてはまる」を選択する。 ○教職員全体での授業研究や授業改善により、「わかった」「できた」「やってみたい」と実感がもてる児童が増える。	○今年度も校内研究においては国語科の授業研究を進めてきた。全担任が公開授業を計画的に行い、美作市教育委員会指導主事に来校頂き、授業改善のアドバイスを頂いた。２学期以降は授業後の研究協議にも参加していただき、指導助言をして頂いた。 ○学校評価アンケート（教職員）の「私は子どもの思考力や判断力、表現力を豊かにし、確かな学力を保障する授業の改善と創意工夫のある実践を行っている。」の項目で「あてはまる」を選択した職員が６人中５人、「ややあてはまる」を選んだ職員が６人中１人であった。職員がそれぞれの持ち場で、子どもたちの能力伸長のために尽力したことがよく分かる結果となった。17人の子どもたちが落ち着いた学校生活を送り、学びに真摯に向かっている姿は、職員の熱心な指導の結果であると言える。統合までの残された期間で、現学年での学習内容をしっかり定着させること、「わかった」「できた」「やってみたい」と実感がもてる機会を少しでも増やしていきたい。	B		
体力の向上～体をきたえ、「できた」「やってみたい」が実感でき、運動を好む児童の育成～	○基本的生活習慣の確立を図る。	○生活指導重点事項「すすんであいさつしよう。」と「規則正しい生活をしよう。」に全校をあげて取組を進めている。 ○メディアの時間について、家庭で相談した目標時間（学校の目標時間は90分以内）を守る児童の割合を９０％以上にする。	○令和４年10月に行った生活習慣アンケートより、目標の就寝時刻（低学年：20時、中学年：21時、高学年：22時）を守ることができている児童は64.7%（11名）であった。寝る時刻が遅い児童が数名いるのが心配である。また、朝食を毎日食べてない児童が２名（７日中５日食べた：１名、３日食べた：１名）だった。今後も「早寝・早起き・朝ごはん」を守り、規則正しい生活を心がけることを家庭と協力して取り組んでいきたい。 ○大原中学校区で決めた年５回のメディアコントロール取組週間において、各家庭でメディアの利用時間を90分以内にすることを目標とし、家庭学習・読書・親子のふれあい等の時間を増やしてよりよい生活リズムを確立することをねらいとして取り組んできた。保護者の協力と子どもたちの頑張りにより目標時間を達成することが２回あった。養護助教諭が生活チェックカードの工夫を重ねたり、メディア機器を使わない時間の過ごし方をイラストを交えながら紹介してくれたり、子どもたちが意欲的に取り組める仕掛けをしてくれたことも好成績の一因である。	A		

	○体育科の授業の充実と外遊びの奨励。 ○「体力アップ・マイベストチャレンジ！」「運動習慣カード」「チャレンジランキング」の取組を進める。	○新体力テストにおいて、全国平均値（Ｔスコア５０）を超える種目を全学年で５種目以上にする。 ○運動アンケートで「運動の実施状況と段階分布」において、運動の実施状況が週３日以上の割合を８０％以上とする。 ○運動やスポーツの愛好度で９０％以上の児童が好きと回答している状態を維持し、全校児童が運動を好む状態にする。	○5月12日（木）新体力テストを全校で行った。昨年度の新体力テストの結果を受け自身が伸ばしたい種目を2つ決め、「体力アップ・マイベストチャレンジ！」を活用し、自己新記録を目指して力いっぱいテストに挑んだ。全学年でＴスコア50以上の種目を5種目以上にすることはできなかった（1年男子5種目、2年男子4種目、2年女子6種目、3年女子6種目、4年男子0種目6年男子0種目、6年女子7種目）が、本校の課題であった柔軟性を測る長座体前屈で2年女子、4年男子、6年男子、6年女子で昨年度よりＴスコアが伸びた。 ○運動アンケート「運動の実施状況と段階分布」では週3日以上運動する児童は47％と目標値を大きく下回った。休み時間に外で遊んでいる児童は増加してきたが、室内で過ごすことを好む児童も多く、今後の課題である。 ○今年度、水泳指導と陸上指導、そしてリズムジャンプの指導で講師を招聘した。地域の方との交流もねらいの一つとして、指導経験のある地元の方に来て頂いた。児童の感想の中には自分の泳ぎの伸びについて書いてあるものや、6年生全員がハードル走の自己ベスト記録を更新するなど、子どもたちがそれぞれの運動を好きになるきっかけとなった。	B	B	A
	○けん玉道を通じて、心と体を鍛える。	○全児童が、令和３年度末の認定級よりも、３級以上昇級する。 ○「あせらず、あわてず、あきらめず」の言葉のとおり、粘り強くけん玉の技に挑んでいる。	○今年度、けん玉集会を児童朝礼のない月曜日に設定（年9回）し、計画的かつ継続的に取り組んできた。高学年は委員会の常時活動やイベント・集会等の準備もあり、休み時間にけん玉をする余裕があまりなかったと思われるが、低学年はこつこつと新しい技に挑戦し、できなかった技ができるようになると大喜びし、また次の技へと挑戦する姿が見られた。 ○2月に最後の検定を行うが、全児童が昨年度の級を3級以上上回りそうである。また、けん玉集会最終回では、けん玉大会を開き、東粟倉小学校けん玉チャンピオンを決定する予定である。	B		
	○体を動かすことの喜び、運動することの楽しさを味わわせる。	○子どもたちが楽しく体を動かすことができるよう、サーキット場を設置する。 ○そこで、楽しみながら運動することで、自然に体力も向上している。	○体育主任が中心となり、体育館とグラウンドにサーキット場を設けることが実現した。新体力テストの種目に合わせて走ったり跳んだり、投げたり握ったり、さまざまな力がバランスよくつくよう種目を考え、また、児童が主体的に動くことができるよう、種目名を記したプレートも子どもたちが手作りした。 ○こぶしっ子サーキットカードを作成することで、繰り返し何度もチャレンジできるよう、また、達成感を味わうことができるように工夫した。当初の計画では、登校後や下校前に実施する予定であったが、それは実行できなかった。	B		
家庭・地域から信頼される学校づくり	○学校便り・学級通信の発行、みまちゃんネルデータ放送への配信、HP の更新による学校からの情報を発信する。	○学校便り・学級通信を発行することで家庭や地域に学校の情報が伝わる。 ○みまちゃんネルデータ放送やホームページを定期的に更新し、最新の情報が伝わる。 ○さまざまな学校行事を保護者や地域の方に知らせ学校を訪れる機会を増やすことで、学校や児童の様子を知っていただき、支援の輪が広がる。	○月１回発行の学校便りで、学区内全戸に学校の様子を広く情報発信することができている。学級担任によって発行枚数は異なるが、クラスの様子を保護者に逸早く伝えるべく学級通信を発行できている。ホームページについては更新が進まなかったこと、またその内容の充実を図ることは今後の課題である。 ○新型コロナウイルス感染症の感染拡大が未だ収まらないが、今年度は感染対策を講じながら学校行事もコロナ禍前におおよそ戻してきた。どの行事もが東粟倉小学校最後となることから出来る限り実施できるように考えてきた。	B	B	B
	○スクールカウンセリング、教育相談の実施と事後指導と経過の共有を図る。	○随時、家庭訪問、連絡帳、電話等を行い、保護者との連絡を早急かつ密にすることで、信頼関係が深まる。 ○教育相談週間を設けたり、スクールカウンセリングを実施したりすることで、保護者支援を行う。	○生徒指導面では、「早期発見・早期対応」の意識を持ちながら家庭訪問・教育相談を行うことで、保護者との連携・信頼関係づくりができている。 ○スクールカウンセラーによる教育相談や、スクールソーシャルワーカーによる見守り児童への対応、連絡・相談体制が少しずつ強化されてきている。	B		

	○「地域の中の学校」として、地域学校協働本部事業の推進。	○地域学校協働本部事業を充実させ、ボランティアの方々による学校支援が進む。	○コロナ禍で学校支援ボランティアの方々の学習や行事への協力的なサポートがなかなかしづらい状況にあったが、少しずつコロナ禍前に戻りつつある。プール掃除や掃除ボランティア、花の苗植え作業や焼き芋等々、いろいろな活動で今年度もお世話になり、教育的効果は維持されていると考えている。 ○体力の向上に重点をおいた本年度。水泳指導と陸上運動指導で、地域の方に指導者として来ていただいた。子どもたちの記録更新が図られたと同時に、自信をつけ、泳ぐこと、走ることに喜びを抱き、楽しく体を動かすことができる児童が多かった。閉校までの残された期間、地域と協働して子どもたちのためにできる限りの支援を行っていただけるよう、学校が地域にしっかりと声かけをしていきたい。	A		
	○外部評価の実施とその活用を図る。	○学校評議員会の開催と外部評価の実施が行われている。	○今年度は学校評議員会を2回開催することができた。外部評価の参考資料として2回目も実施でき、授業参観、学校説明、懇談により評価して頂く。	B		
安心・安全な学校づくり	○積極的な生徒指導と事後指導。 ○第3者を交えてのいじめ対策委員会、学校保健委員会、支援ケース会議の実施。 ○学校評議員、児童民生委員へのいじめ実態報告といじめ対策委員会への参加依頼を行う。	○子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、積極的な生徒指導が行われている。 ○有事の際には、組織で対応にあたることができている。	○いじめについては、「いじめを考える週間」や人権集会、人権作文・ポスター・標語づくり、道徳や学級活動での人権学習、さまざまな側面からいじめ防止の取組を行った。大原中学校区学びの連携事業人権部会の取組の一つであるポスターや標語の交流も実施できた。いじめの実態はほとんどないものの、楽しい学校生活アンケート（11月実施）の結果において、友だちから嫌なことをされるかの質問でときどきあると回答した児童が1名（6月は5名）であった。これは友だちに注意されることを嫌なことをされると感じた1年生の1名である。今後も引き続き他者意識を育て、思いやりのある言動がとれる指導を行っていきたい。 ○有事の際は、ケース会議の開催やいじめ対策委員会等を早急に開き、情報交換等を行うとともに、積極的な生徒指導を実践し、更なるいじめの未然防止に取り組んでいきたい。	A	B	B
	○自ら考え、判断し、自分の命を守る安全教育の推進。	○登下校指導や見守り活動を行うことで、児童の安全が確保できる。 ○火災や地震の避難訓練・交通安全教室・防犯教室等を実施し、日頃の安全意識も向上する。	○校内での計画した安全指導ができている。徒歩やバスでの登下校の仕方などの校外指導も適時行った。 ○毎年訓練となった不審者侵入の避難訓練に取り組み、防犯意識の向上とともに不審者対応のマニュアルについても再確認することができた。 ○家庭との引き渡し訓練も例年行っているが、今年度は講堂にての引き渡しとなった。計画とは異なる引き渡し会場となったが、職員が協力し臨機応変に対応することができた。	B		
	○関係機関との連携体制を強化し、児童の安心・安全を確保する。	○見守り隊や保護者と連携しながら、「地域の宝」である児童の見守り体制が構築する。 ○青少年育成センター・民生児童委員・SC・SSW、社会福祉課等と連携を図り、子どもたちの健全育成に努めるとともに、児童の安全や居場所を守る。	○通学路の安全点検並びに環境整備により、安全な登下校ができている。 ○不審者や交通事故等の危険から児童を守る体制がとれている。 ○今年度もクマの出没が頻繁にあり、1学期の途中から2学期末まで朝の登校もバス通学となった。特にクマの出没があった場合は、職員が朝の登校指導を行ったが、職員不足のため、各通学路での十分な登校指導までには至らなかった。 ○児童の安全や居場所を守るため、美作市保健福祉部子ども政策課（美作市要保護児童対策地域協議会）と連携してきた。今後も関係諸機関との連携を強化し、情報交換やケース会議等を適時行いながら、支援の必要な児童への対応を継続していく。	B		
	○職員の危機管理意識の向上を図る。	○コンプライアンス研修を積極的に実施する。 ○早期発見、早期対応に努める。	○毎月の職員会議や、校内研修の時間において、コンプライアンス推進員の計画・進行のもと、飲酒トラブル、交通事故、体罰等多岐に渡る内容で定期的に研修を実施することができた。 ○今年度は職員の交通事故がなかった。万が一のときの対応について、研修内容が生かされるとともに、これからも危機意識の向上に努めていく。	A		

令和4年度　美作市立美作第一小学校　学校評価書

（A：目標を上回った　B：ほぼ目標どおり　C：目標を下回った）

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準 数値目標は4段階　・上位評価（●のみ最上位評価）	自己評価（最終） 達成状況　【昨年】	評価	総合評価	分析・改善方策	学校関係者評価
1　学び合う児童の育成	・「主体的な学び」に重点を置いた授業改善 ・学習規律「一小スタンダード」の徹底 ・岡山型学習指導のスタンダードの徹底 ・めあてに対応させ話し合いを基にまとめ、振り返りを書くノート指導の徹底 ・全国学力テスト問題やそれらの分析結果を生かした補充学習、到達度確認テストの活用への取り組み ・自学ノート校内掲示	●対話を通じて、協働的に課題解決しようとする児童が50%以上。（児童、職員アンケート。保護者30%） ●めあてに対応させ話し合いを基にまとめや振り返りを書くノート指導をすることができたという回答が70%以上。（職員アンケート） ●自分で学習の振り返りを書くことができる児童が、70%以上。（児童アンケート） ・到達度確認テストの全学年実施 ・全国・県学力テスト過去問題や類似問題への継続的取り組み	職-①「一小学び」33.3(100)%【27.8(94.4)%】 職-③「対話による課題解決」 16.7(77.8)%【11.1(83.3)%】 児-③「友だちと話したり聞いたり」 54.2(88.4)%【60.5(94.2)%】 児-④「振り返りでまとめを書く」 49.5(84.2)%【52.1(86.3)%】 保-②「進んで学習に取り組む」 15.3(89.4)%【21.3(90.7)%】 ※（上位評価）	B	B	・友だちに話したり聞いたり　高学年では、対話的授業のよさを児童も実感できているが、低学年では対話の授業がなかなか成立せず、評価が低かった。 ・ふりかえりで自分の考えを書くでも、高学年ほどタイムマネジメントができ、振り返りで自分の考えを書くことができていた。また、タブレットを活用し、板書を保存し振り返りを書き込むスタイルに取り組んだ学年もあった。 ・見通しをもたせ、対話的な授業は授業内容の理解に役に立った。授業改革推進員や外部講師（岡山大学教師教育センター高旗浩志教授）を招聘し年4回の研修を実施した。国語科を中心に学習指導案の各項目の書き方を通して、指導と評価の一体化の研修も行った。「3人組授業見学システム」を取り入れ、単元計画を児童と一緒に立てて見通しを持たせたり、対話の設定を視点にOJTにも取り組んだ。教職員自身が取り組めたと感じられるよう、更に取組を焦点化し、全校で一点突破の徹底を図る必要がある。 ・クロムブックの活用が本格的になり、高学年を中心に読書量が減っている。しかし、子どもたちの学びにおいて読書が重要なことは変わらない。今一度、学校では朝読書、読み聞かせ、教室にミニ図書館、本を使った調べ学習、教科書教材に関連する本に触れる機会を増やしていく。保護者にも児童の学びが伝わるように、本から学んだことを家庭で話題にできるよう、図書カードの持ち帰りやPTAと連携した親子読書や週末読書の課題なども行っていく。 ・家庭学習について、昨年同様に保護者の評価が低い。各学年の発達段階に合わせて適切に内容を設定し、学校からの漢字・計算ドリルの宿題だけでなく、教科書を読んで予習をしたり、自分から調べたことや復習したことを自主学習ノートにしたりするなど、家庭学習の出し方にも工夫していく。また、時間を決めて学習に取り組むなど、今後もメディアコントロール週間を設定し、より良い生活習慣を身につけられるように学校はあらゆる機会に啓発し、家庭と協力して取り組む。	・家庭学習について、漢字ドリルや計算ドリルは保護者もやったかどうかわかるが、自主学習についてはわかりにくいのではないか。 ・家庭学習のことが保護者に伝わるように、提出の様子を懇談等で知らせたり、我が子がやっていることを知る機会をもつともっと数値があがるのでは？ ・児童が調べたくなるような内容等を子どもに示すこともよいのではないか。
	基礎的な知識技能の定着 ・徹底したチャレンジタイムの実施 ・水曜日の放課後学習（国語）の徹底 ・東書データベースの活用 ・計算力のたしかめ学期に1回計算チャレンジを実施、繰り返し実施定着を図る。 ・補充学習の時間等で国語・算数の優先課題に集中的に取り組む。	・80%以上の児童が、朝学習で立ち止まることなく計算等の処理ができる。（職員アンケート） ・計算チャレンジテストの結果　90%以上 ・勉強がわかるという回答が　80%以上 （児童アンケート） ・補充学習の時間等で国語・算数の優先課題の補習と家庭での復習ができたという回答が70%以上。 （職員アンケート）	児-⑤「すらすら計算」81.6%【82.6%】 職-⑤「計算処理」68.8%【72.3%】 児-⑧「勉強よくわかる」85.3%【87.9%】 職-⑧「授業内容理解」72.3%【79%】	B			
	読書量を増やす取り組み ・読書指導、読書の時間の週1回確保 ・年間の「読書目標冊数」の設定・学校・家庭で読む読書量の増加 ・教室にミニ図書館の設置 ・調べ学習や関連読書の推進	・読書に親しみ、学習に活用しているという回答が全体の70%以上。 （児童、保護者、職員アンケート） ・読書目標冊数 年間平均　低学年（1・2年）80冊以上 高学年（3～6年）40冊以上	児-⑨「すすんで本」72.6%【70.6%】 保-⑦「読書」85.7%【82.4%】 年間読書冊数 低学年80冊　90%【94.2%】 高学年40冊　60%【84.9%】	B			
	家庭学習の充実 ・家庭学習の手引きの実践 ・わかる授業とできる宿題 ・自主学習への取り組み（予習・復習中心）	・予習や自主学習（高学年）等、家庭学習の時間が増えたという回答が70%以上。 （児童、保護者アンケート）	児-㉑「家庭学習」76.3%【77.3%】 保-㉒「家庭学習」50%【51.3%】	C			
2　思いやりのある児童の育成	あいさつ運動の実施 ・大きな声で進んであいさつ ・運営委員会、学級での自治的な活動	・あいさつがよくできるという回答が80%以上。 （保護者アンケート） ・進んであいさつができているという回答が80%以上。（児童アンケート）	保-⑧「あいさつ」64%【74.5%】 児-⑩「あいさつ」84.2%【83.7%】 職-⑩「すすんであいさつ」63.1%【79%】	B	B	・自分から元気にあいさつできる児童が少ないことが課題である。学校では6年生を中心とした朝のあいさつ運動、PTAあいさつ運動の他に、「自分からあいさつスタンプラリー」も新たな取り組みとして行った。しかし多くの児童が主体的にあいさつができるような取り組みを行うことができなかった。今後は全ての職員で児童のよいあいさつを認め帰りの会など様々な機会をとらえて紹介し賞賛していく。あいさつはマナーでもあり、あいさつの意義に触れた指導も必要である。大人が手本を見せる意味でも、学校・家庭・地域の大人が連携してしっかり声をかけ、「すすんであいさつする児童の育成」を引き続き目指していく。 ・昨年度より肯定的な声かけが重要であることを認識してきた。学ぶ姿勢や好ましい人間関係に係る個や集団への評価を行うことで、児童の「認められている」という意識がわずかではあるが向上した。職員の中に評価の観点を増やすためにも職員間で具体的な研修が必要と考える。 ・自己肯定感を高め、人間関係を高める学級集団作りに関して、教員による力量の差がある。「非認知能力」について夏季研修で学び、3学期にも校内で研修を重ねた。本校の児童の実態から、目指すべき児童の姿について共通認識を図った。児童の姿を見取る具体的な取組を共有し、教員の捉え方の向上を図る必要がある。 ・児童アンケート⑭について、昨年同様評価が高くなっている。更なる向上に向け、好ましい人間関係に係る個や集団への評価を行う。また、職員の中に評価の観点を増やすためにも職員間で具体的な研修を行い、よりより学級集団作りに取り組んでいく。	・あいさつをしっかりがんばってほしい。恥ずかしいからか、自信がないからか、しないわけではないが、頑張って取り組んでいってほしい。 ・「学校は楽しい」という子どもは増えているのに、減っているのは保護者なので、保護者に学校での様子を知る機会が減っているからか。 ・通信やお知らせで、学校での様子を、もっと知らせていけばよいのではないか。 ・良いことの発信をぜひしていってほしい。子どもから聞くだけでは分からない親もいる。親の認識度合い。
	望ましい人間関係の育成 ・道徳、　人権教育 ・認めあえる学級集団づくり、 日々の生徒指導 ・自分には良いところがあり、学校が楽しいと感じられるよう、あらゆる活動で児童一人ひとりの「ねうち」のある行動を認める取組	●自分には友達や先生から認められているよいところがあり、学校に行くことが楽しみという回答が50%以上。（児童、保護者アンケート。職員アンケートは66%） ●運動会、学習発表会での学校評議員・来賓評価	児-⑫「学校は楽しい」 49.5(76.9)%【47.4(75.8)%】 保-⑩「学校に行くことが楽しい」 38.4(86.1)%【47.8(82.3)%】 職-⑫「学校は楽しい」 10.5(94.7)%【10.5(94.7)%】 ※（上位評価）	C			
	体験活動を生かした道徳教育、教育相談、積極的な生徒指導 ・学校行事、縦割り班、通学班 等での活動	・友だちと仲良く協力できているという回答が90%以上。 （児童アンケート） 運動会、学習発表会での学校評議員・来賓評価	児-⑭「友達と仲良く…」93.1%【93.7%】 職-⑭「人権意識」100%【93.7%】	A			
	児童理解のための研修、情報交換 ・会議ごとの情報交換 ・ケース会議や校内研修	・教職員が児童一人ひとりの課題を共有しているか。 （職員アンケート）	職-㉔「児童理解」100%【82.4%】	A			
	問題行動、不登校等に対する、教職員集団としての未然防止、早期対応 ・生徒指導体制の充実 ・職員の危機の感性	・報告、連絡、相談、確認の徹底、組織対応ができているか。 （職員アンケート）	職-㉜「事故やけが、組織対応」100%【94.1%】	A			

3 体を鍛える児童の育成	運動への親しみ、楽しさの体験 ・体育の授業の充実(質と量の向上) ・体力づくりのために、チャレンジランキング、ロング昼休みの外遊び、縦割り遊びを奨励する。	・自分の体について知り、進んで運動しようとしているという回答80% (児童、保護者、職員アンケート) ・運動会での学校評議員・来賓評価	児−⑱「外遊び」80%【90.6%】 保−⑲「運動」90.6%【94.6%】 職−⑱「外遊びや運動」94.7%【100%】	A	B	・児童アンケート⑱「外遊びや運動をよくしている」の評価が昨年より低下した。今年度も月曜日をロング昼休みにしており、異学年間でサッカーや鬼ごっこやドッジボールをしたり、縄跳びや一輪車の練習をしたりする姿が多く見られる。また、高学年になっても外遊びを行っている児童が多いことは本校の強みである。しかし、外遊びなど日常的に運動している児童とそうでない児童の2極化が更に進んでいる。今後、体育において運動に楽しみながら取り組む活動を工夫していくことが必要である。スポーツテストの結果からも、子どもたちの体力低下が心配される。体育授業で運動の質と量を高めたり、多様な動きを体験させたりして日常的に運動する習慣作りに繋げていく。体育の授業が子どもたちの体力向上の基となるよう職員間で研修や共通理解を行っていく。 ・保護者アンケート㉑「早寝早起き朝ごはん」が昨年同様に目標値を下回っている。家庭内での児童の生活リズムが不安定であると考えられる。しかし、職員アンケート⑳「好き嫌い」からも、給食時において残食をする児童数は減ってきた。今後更に食育担当や担任を中心に食にかかわる啓発企画や指導を行い、児童が食の大切さ、有り難さを感じられるようにしていく。	・地域の少年団に入る子が、本校は少ない。 ・体力テストの結果はどうか。高学年ほど2極化し、全体の底上げが課題なので、健康も含めた体育をがんばってほしい。 ・残食週間の取組はよいことだ。目標が合って、みんなでがんばったら、ご褒美ではないけど〇〇できるといったことは、何をするにも大切なことではないか。
	自己の生活を見つめ、心身ともに健康な生活を送ろうとする態度の育成 ・保健だより ・保健指導 ・朝食摂取の大切さの啓発と「生活習慣・メディアコントロール調査」の実践・回収率のアップ	・朝食を食べているという回答90%以上 (児童、保護者) ・生活習慣とメディアの調査を行い、朝食摂取状況調査結果 90%以上。	保−㉑「早寝起朝」84.9%【85.8%】	B			
	正しい食生活の習慣化 ・好き嫌いのないバランスの取れた食事の大切さの啓発企画や指導	好き嫌いなく食べようとしている児童 80%以上。 (職員アンケート)	職−⑳「好き嫌い」83.3%【83.3%】 児−⑳「給食好き嫌い」78.9%【83.6%】	B			
4 チャレンジする教職員	研修、自己研鑽，自己変革 ・授業公開を通した指導力の向上 ・日々の実践交流	授業公開や日々の実践交流で教師自身の授業改善がなされているという回答が80%以上。 (職員アンケート)	職−①「一小学び」100%【94.5%】 職−㉑「授業改善」94.7%【100%】	A	B	・今年度は国語科を中心に単元計画を立てることで児童が見通しを持ち、主体的に学ぶことができるよう、職員が同じ方向性で指導ができてきた。今後は教材研究や教材分析の質を高め、授業力や生徒指導力の更なる向上を目指していく。 ・保護者アンケート⑯「困った時、適切に対応」は昨年に比べ評価が下がった。連絡を密に取るなど保護者に対し誠実に対応することが重要である。一人で対応するのではなく、担任・生徒指導・養護教諭・別室指導員・管理職など複数で対処することをより徹底する。今後も危機管理の面から、組織的対応を進めていく。	・次年度の研究を体育で行うことはよい。
	保護者との良好な人間関係作り ・日常的な教育相談 ・電話等の対応 ・細やかな連絡、共通理解 ・組織的な対応	教職員の対応は誠実に細やかに行われているかという回答が90%以上。 (保護者アンケート)	保−⑯「困ったとき」80%【85.4%】	B			
5 家庭・地域連携	家庭教育の充実を図る ・生活十力条の実践 ・家庭学習の手引き、活用の徹底 ・メディアコントロール週間(中学校区) 学期1回、年間3回実施 ・授業内容に繋がる予習・復習	家庭学習が学年に応じためあて(時間、内容)を達成しているという回答が70%以上。 (児童、保護者、職員アンケート) メディアコントロール週間の集計結果	職−㉓「家庭学習時間・内容」88.9%【73.3%】 児−㉑「家庭学習」76.3%【77.3%】 保−㉒「家庭学習」50%【51.3%】	C	B	・今年度も家庭学習にかかわる評価が保護者・職員共に低い結果であった。家庭学習時間、メディア時間の調査も年3回実施しているが、家庭での生活にまで十分生かされていないと考えられる。児童に対しては「家庭学習の手引き」を年度初めに確認し、家庭で学習する時間を持つ大切さや一生懸命取り組む気持ちを日々育てる。自主学習においては、取り組み状況にばらつきが見られた。今後は昨年度から行っている授業内容に繋がる予習・復習などの取り組みや各学年での行う量や内容についてよりいっそう共通理解を図っていく。そして、工夫されている自主学習を掲示し、参考にしながら取り組めるようにする。 ・今年度もコロナ禍の影響で、地域の方にご協力頂くことが難しかったが「田植え・稲刈り」「卒業式へ向けての花の寄せ植え」「湯郷温泉・温泉旅館の見学」「水生生物調査」「道路建設の見学」等を行うことができた。来年度についても対策をとりつつ、学校支援ボランティアの方たちにご協力いただくことができるようお願いしたい。	・タブレットを全学年使っているのか？どんな内容をしているのか？　地域や保護者にもわかるように、タブレット使用の参観日等を設定し、どの学年も使用している様子を保護者が見るのがよい。 ・タブレットの故障や、家庭での環境、学校での使用状況、持ち帰りルールなどどうなっているかといったことも、今後の課題になっていきそうだ。 ・携帯・スマホの学校への持ち込み等も、中学校区で連携を図っていくのがよい。
	学校教育への家庭・地域の参画を促す ・各種たよりの発行による啓発 ・地域、保護者の学校行事への参加を促す。 ・学校支援ボランティア等地域の人材活用 ・トライアングルみまさか保幼小中連携 ・メディアリテラシーの授業(参観日) ・情報機器の適切な使い方と家庭学習のめあて達成への家庭との協力	学校のようすがよくわかり、行事等に参加しやすいという回答が90%以上。(保護者アンケート) 地域の人材活用が有効に行われ、充実しているという回答が80%以上。 (職員アンケート) 緊密な情報交換のもと、小中一貫して「チャイムスタート」「あいさつ・返事・くつそろえ」の取り組みを進め、児童の実態に変革がみられたという回答が80%以上。 (職員アンケート)	保−㉓「便り通信・参観日行事」83.7%【88.2%】 職−㉘「地域人材」83.3%【77.8%】 職−㉕「チャイム」94.7%【77.8%】	B			
6 学校安全	児童・職員の生命をまもる ・施設、設備管理 ・安全点検の実施 ・コンプライアンス研修	安全点検により施設設備の管理が十分行われているか。(職員による安全点検結果、職員アンケート) 定期的なコンプライアンス研修 不祥事の発生率0%　危機意識の向上	職−㉝「安全点検・施設・設備」100%【94.4%】	B	B	・児童や職員の安全を確保するため、担当が毎月点検し学期1回は複数の職員で点検する。危険な場所・施設を全職員が把握し早めに修繕する。避難訓練は定期的に訓練を行い、職員が避難方法を良く理解し、全体ですみやかに避難できるように徹底する。 ・登下校時の児童の並び方には、まだまだ改善の余地がある。下校時に各班で振り返りを行うなど児童の意識を高める。安全を第一に更なる日常指導の徹底を見守り隊との連携をとりながら進める。定期的に登下校の様子を確認し、指導を強化していく。 ・今年度は、毎月1回、管理職が中心になりコンプライアンス研修を行ってきた。これからも定期的に行うことで、絶対に不祥事が発生しないように努める。	・地域の見守りパトロール隊等で、児童の登下校の安全に協力している。 ・スクールバスが校内に入るようになり、校門前の坂が狭いので、溝蓋してもらうように要望してはどうか？ ・坂下駐車場に駐車ラインがあったほうがよい。 ・「施設が汚いと　良い子は育たない」ので、今後も頑張って地域でも協力していきたい。
	災害・事故・事件の予防と対応 ・避難訓練の実施 ・交通教室の実施 ・組織的な登下校指導と家庭・見守り隊等地域との連携	安全教育の指導は、校内外において、課題に即した内容で有意義に行われているか。 (職員アンケート)	職−㉞「避難訓練」100%【94.7%】 職−㉟「登下校」100%【88.2%】	B			

美作市立美作北小学校　令和4年度　学 校 評 価 表

ミッション	今を大切に生き、将来に希望をもって心豊かにたくましく生きていこうとする子どもを育てることで、保護者や地域の大きな期待に応える。

評価計画			自己評価				学校関係者評価		改善計画
	目標	目標達成の為の方策	12月 達成値	達成率	評価	成果と課題	2次評価	学校関係者から意見	改善案
確かな学力の育成	重点 ・学力向上のためのアクションプランを実行 ・基礎的な知識・技能の習得	・朝学習や放課後補充学習の時間を使っての前学年と現学年の復習実施 ・絶対的基礎学力検定を行い、基礎基本の定着度を確認 ・家庭学習習慣の促進	集計表 (児)⑪ (保)⑩ (職)1－①, 1－③, 1－④ の平均	85%	A	朝学習や放課後補充学習については、どの学年も計画的に指導・実施できた。水・木・金曜日の朝学習では、新出漢字やことばのきまりなどを学習する取組を始めて2年目となり、12月までに新出漢字を指導することができた。放課後補充学習においては、クロームブックを使用したり、到達シールを準備したり、意欲をもたせる工夫もできた。絶対的基礎学力検定に向けた取組も年度初めから学年団で計画的に進められた。保護者が「子どもは家庭学習の習慣が身に付いているか」の質問に対して達成率が66%から79%へ伸びが見られた。今後は、家庭学習において、内容がマンネリ化しないように授業との連携についても見直していくことが課題である。	A	宿題・読書・自主学習は、習慣化してきていると思える。しかし、学校の反省にもあるようにマンネリ化が見られるようだ。学習については、さらに目的意識（めあて）や意欲を高める工夫をしていただいたらありがたい。	来年度も、今年度と同様、目指す子ども像の育成を授業の中で行えるよう、授業改善に重点を置いて取り組んでいく。それを校内研究の主たるテーマに位置付けて全職員で取り組んでいく。 基礎学力の定着に向けての取組については、朝の学習や放課後補充学習の取組を見直し、修正を加えた上で継続していく。家庭学習や自主学習についても、児童が主体的に取り組めるよう保護者との連携を図っていく。タブレットの活用については、幅広い活用ができるように研修を行っていきたい。
	・「主体的・対話的」で深い学びに向けた授業づくり	・児童に考えさせたり話し合わせたりする場と時間が確保された授業づくり ・ICT機器の有効活用（クロームブック・プロジェクター） ・研修3部会制を生かした授業研究の推進 （国語部会・算数部会・特別支援部会）	集計表 (児)③ (保)③ (職)1－⑦, 1－⑬, 1－⑭ の平均	86%	A	児童に考えさせたり、話し合わせたりする授業作りについては、授業研究を行い、授業改善を校内研修において行っている。クロームブックの使い方や有効活用については、全員研修を行って指導者が統一した使い方ができるようにした。ICT機器の有効活用としては、プロジェクターを購入し、ほとんどのクラスで使用できるまでになった。その結果、児童「授業はよく分かる」、保護者「子どもが授業が分かりやすいと言っている」の質問では、達成率が76%から83%、66%から80%と昨年に比べて伸びを示している。さらに児童にとって分かりやすい学習に近づけていくために、今後の研修のもち方やクロームブックやプロジェクターの使用を模索していく。	A	他人にはっきり伝える力はとても大切だと思うので、子ども達には、授業中に相手に伝える経験を積み上げてもらいたい。子どもは結果重視にかたむいているようだ。	
豊かな心 思いやりの心の育成	重点 ・自己有用感を持って、自治的能力を発揮できる児童の育成	・存在感を感じることができる学級づくりの研修実施 （i-check） ・自治的能力を身に付けるための指導の工夫	集計表 (児)⑥ (保)⑦ (職)2－①, 2－④ の平均	82%	B	児童が所属意識を感じることができる学級づくりをめざして、i-check（※1）や学級リフレクション（※2）の研修を行った。講師を招いて調査結果の見方を研修して各クラスの強みや弱みを知ることができ、学級経営に生かすことができた。また、「非認知能力」（※3）を高める取組として「運動会」と「学習発表会」では「学びのノート」の取組を全校で行った。しかし、児童「自分には良いところがある」、保護者「子どもは自分には良いところがあると言っている」の質問では、達成率が75%、81%と自己有用感を十分には高めることができていない。今後は、児童一人一人への声のかけ方や、学級活動の工夫を行い、児童一人一人が自信を思って学校生活を行うことができるようにしていくことが課題である。	B	コロナ対策もあるだろうが、音楽を扱うなど、学習発表会の内容を検討されてはどうか。	担任が一人一人の思いを受け止められるように、今後もアクションプランと連動した学級経営案のあり方についての研修を継続していく。「非認知能力」を高める取組として「運動会」と「学習発表会」では「学びのノート」の取組を全校で行う。 昨年度あまり実施できなかった異学年交流については、高学年がリーダーシップを発揮して活躍できるよう、縦割り班を活用した異学年交流の場をさらに増やすとともに、下学年も自主的に活動できる場面を設定していきたい。 道徳についても「生命の尊さ」「友情、信頼」に関する授業を重点におき、子どもたちが自らの生活をふり返ることができる授業作りを行っていく。 登校しぶりや児童同士のトラブル、いじめについては、今後も全職員が一丸となって取り組み、ケース会議を活用して職員の共通理解を図っていく。地域の方へのあいさつについては、家庭との連携を図りながら進めていきたい。
	・助け合いや思いやりの心の育成 ・自他の生命を尊重し、道徳性の高い児童の育成	・助け合いや思いやりの心を実践に生かせる場の設定 （縦割り掃除・縦割り遊びなど） ・道徳の授業における「生命の尊さ」「友情・信頼」などの内容項目を複数回実施 ・他者への意識を高める生活指導	集計表 (児)⑤ (保)⑥ (職)2－②, 2－③, 2－⑤ の平均	90%	A	令和2年度からコロナ禍での学習が3年間続いた。運動会や学習発表会における高学年のリーダーシップを発揮できる場面が限定されたが、児童「友だちと助け合いができている」、保護者「子どもは、助け合い、思いやりのある子に育っている」の項目では、高い達成率だった。また、縦割り掃除では、低学年の世話をする姿や友だち同士で協力する姿が多く見られた。道徳の授業では、年間計画に沿って「生命尊重」「友情・信頼」に関する授業を複数回行った。今後も取組を継続していくとともに、授業と普段の学校生活との連携を図りたい。	A	集合場所や通学路での子ども達の様子を見る限り、子ども達の人間関係は良好のように思える。集団で登校できない子がいるのは残念だが、学校教育の成果と感じる。	
	・いじめを許さない児童の育成 ・気持ちのよいあいさつができる児童の育成	・校内いじめ対策委員会の実施 ・児童アンケート・教育相談・ケース会議の実施 ・児童会によるあいさつ運動実施	集計表 (児)④ (保)⑤, ⑰ (職)3－⑦, 4－①, 6－④, 6－⑤, 6－⑥ の平均	90%	A	児童同士のトラブルについては、児童の気持ちを受け止めて解決をしていくように取り組んだ。いじめ対策については、全職員が一丸となって取り組んでいる。また、学校生活アンケートを各学期行い、児童の様子を早期にキャッチし、早めの対応を行うことにつながっている。ケース会議も継続的計画的に実施し、職員の共通理解に努めることができた。あいさつ運動は、児童会が中心となって運動を行った。また、昨年に引き続いて「二言あいさつ」を今年度も掲げ、取り組むことができた。目を見てあいさつをする児童が増えているが、地域の方へのあいさつが課題となっている。	A	見守りで立っている人に、自分からあいさつする子はまだ少ないと感じる。「〇〇さん、おはよう」と名前付きで言えば、小声での返事が返ってくる。（7～8割）散歩されている地域の方からあいさつされても返す子どもは少ないと聞いている。 思いやりや豊かな心は、家庭教育の問題と思う。（あいさつなどは、家庭で教えるべき）	
体力の向上と健康の維持	重点 ・児童の体力を向上させるための指導方法の工夫改善	・できる喜びを実感できる体育指導の工夫 ・授業外での自主的な体力づくりの場の設定 （業間体育実施、チャレンジランキングへの参加）	集計表 (児)⑩ (保)⑨ (職)3－①, 3－②, 3－③, 3－⑥	84%	B	今年度もコロナ禍に応じた体力づくりに取り組んだ。学習の導入場面では、サーキットトレーニングを取り入れた北小オリジナルの体づくりに取り組み、継続して行うことで、自分の成長に達成感を感じている児童が多い。授業外での取組（業間持久走練習、業間チャレンジ）も継続して行った。水泳学習は、3年ぶりの実施となったが、泳力の低下は否めない結果だった。来年度も年間を通じて、コロナ禍に応じた体力作りに取り組んでいく。また、今年度も体力テストの結果を早期に分析し、指導にいかすことで体力の向上に向けた取組を充実させていきたい。	B	以前から「なわとび検定表」があり、意欲的に取り組んでいる。体力向上に向けた場の設定にさらに取り組んでもらいたい。	体力テストの結果を分析し、今年度の成果を把握し、来年度の取組の改善を図りたい。日々の体育の授業の中で、体力向上に関する取組を全学級で行うようにしていきたい。そのために、体育担当が中心となって定期的に声かけや情報提供を行い、職員の意識の向上を図りたい。 コロナ対策やアレルギー対応をする上で必要となる研修を4月当初に設け、全職員で取り組む。今後も健康に関する学級指導を行い、マスク着用や手洗い指導の徹底については、今後の情勢を踏まえながら、保健委員会でも取り組んでいく。
	・心身ともに健康な体と態度の育成	・熱中症や感染症の予防に関する学習の実施 ・スマホやネット、ゲーム依存未然防止のための取組 （メディアコントロールカードや学校保健委員会を含む）	集計表 (児)⑳ (保)㉑ (職)3－⑤, 3－⑧ の平均	87%	A	今年度も全職員で新型コロナウィルス感染症の対策の指導と管理を進めてきた。運動会や学習発表会、参観日などの学校行事においても保護者に協力をいただいて実施することができた。養護教諭が健康に関するミニ学習を行い、理解・啓発を行った。スマホやネット、ゲーム依存未然防止のための取組については、「メディアコントロールカード」の実施や学校保健委員会の議題に挙げて取り組むなど、保護者への啓発に取り組むことができた。また、学校や各学年の取組を文書でまとめて保護者へ伝えることもできた。来年度も感染症予防対策を行いながら、スマホやネット、ゲーム依存未然防止のための取組も進めていく。	A	スマホ・YouTube・ゲーム等、情報が子どもの身近に溢れている。学校・行政・地域・家庭が協力して、依存症未然防止に強力に取り組む必要性を感じる。	
家庭・地域・こども園・中学校との連携の推進	・こども園・中学校との情報共有と交流推進	・中学校・こども園との情報共有と共通理解 （各種連絡会・接続カリキュラム・トライアングルみまさかなど）	集計表 (職)8－④, 8－⑤ の平均	100%	A	「トライアングルみまさか」において、児童・生徒の情報交換や指導における連携を図り、小中・こ小の連携を図ることができた。こ小の連携は、今まで継続してきた「接続カリキュラム」について、報告と研修を行ったり、見直しをしたりすることができている。小中の連携は、トライアングルみまさかの各部会のテーマをもとに連携を重視した取組となるように見直した。6年児童が中学校の生活にスムーズに対応できるようにするため、中学生に来校してもらって中学校の生活を教えてもらったり、中学校の授業を見学に行ったりして、連携を深めることができた。今後も情報の共有と共通理解を進めていく。	A	トライアングルみまさかの取組においては、今後とも情報の共有と共通理解を進めていってもらいたい。こ小の連携や小中の連携を取ることで、学校間のつながりがスムーズに行えるように取り組んでほしい。	トライアングルみまさかにおいて、児童・生徒の情報交換をするとともに指導における連携を図っていきたい。こ小の連携は「接続カリキュラム」に沿った指導を計画的に行っていく。
	・保護者や地域との積極的な連携と情報発信	・行事の場や通信を利用した教育方針の伝達、説明 ・美作北小学校支援ボランティア等の地域の人材や施設・環境等の積極的活用	集計表 (保)⑱, ⑳ (職)5－②, 5－③, 5－④, 7－④ の平均	88%	A	教育方針の伝達については、学校だよりに掲載したり、地区懇談会で説明をしたりして、保護者に理解を求めてきた。昨年度と同様、メールでの連絡やお願いを細かく保護者に伝えることができた。また、地域学校協働活動においては、コーディネーターと密に連絡を取りながら進め、2年ぶりに「読み聞かせ」「学習ボランティア」を再開することができた。しかし、コロナ禍のため、活動を制限したものになった。来年度に向けては、ボランティアの人材確保が課題である。コロナ禍に応じた対応を考えながら活動の幅を広げていきたい。	A	教育方針の伝達については、保護者の理解が大切である。昨年よりも学校メールでの連絡が増えたことにより、お便りの見落としも少なくなり、大変ありがたい。今年度は、ボランティア活動が少し増えたが、まだ十分できていないのが残念だった。	コロナ対策を十分に行った上で、PTAと連携を行い、学級や学校の実態を正しく知っていただくように努める。ボランティアの人材確保については、今後もチラシの配付を行い、参加を呼び掛けたい。

A 十分達成できた　85%以上
B ほぼ達成できた　50%～84%
C 達成できなかった　49%以下

※1「i-ckeck」…子どもたちが輝くクラスづくりのための総合質問紙調査。「自己認識」「社会性」「学級環境」「生活・学習習慣」の4つの大きいカテゴリーで構成している。
※2「学級リフレクション」…担任が毎学期、自分の学級経営について振り返る活動。
※3「非認知能力」…IQや学力といったテストでは評価が難しい能力。

外部評価
A：自己評価は適正である。
B：自己評価は適正でない。
C：わからない。

令和４年度　美作市立江見小学校　　学校評価書

A：目標を上回った　B：ほぼ目標通り　C：目標を下回った

学校経営理念	確かな学力と思いやりにあふれ、地域とともにある学校

めざす学校像
- 確かな学力を保障する学校
- 気持ちの良い挨拶と返事が響き合う学校
- 思いやりの心が広がる学校
- 地域とともにある学校

学校教育目標	「自立」自ら学び，考え，行動する力「共生」思いやりをもち，共に生きる心「安全」自らの命を守る，しなかかて健やかな体

めざす児童像
- え　えがおでがんばる子
- み　みんなと仲良くする子
- っ　つよくたくましい子
- こ　こころやさしい子

指導目標　児童が主体となる授業づくり　【児童：元気　笑顔　本気】　【教職員：笑顔　協働　】　【視点：多様性　創造力】

指導の柱	重点目標	具体的方策	努力基準（教職員）	評価	成果基準(児童)	評価	具体的な改善点（学校）	評価	学校関係者評価 ご意見
確かな学力の育成	学ぶ構えづくり	チャイムの始業、終業を守る	教師がチャイム始業・終業を守ると共に週目標の重点項目として取り組む。	B	チャイムと同時に授業を始めることができる（観察・アンケート）	A	チャイムスタートができつつある。授業が延びることがある。授業のタイムマネジメントをしっかり行う。	A	良く集中できている。
		全員が話を聞く態勢をつくる	話を聞かせることを最重点とし、聞き方の指導を継続的に行う	B	発言者の方を見て話を聞くことができる。（観察・アンケート）	B	朝礼等の全体の場での聞き方はよくなった。授業での聞く・考える・交流する・発表する　を併せて指導する。	B	
		きちんとした返事ができる	名前を呼ばれたら「はい」の返事をする。わからないときは「わかりません」とはっきり答えさせる。	B	「はい」の返事だけでなく、「わかる」「わからない」の意思表示ができる。（観察・アンケート）	B	授業・終礼・学校行事などできちんと返事や反応をさせる。	B	
	主体的・対話的で深い学び	自分の考えを持たせる	考え方の視点を指導し、ノート等に記入させる。	B	自分の考え方を例等を用いながら分かりやすく記述することができる。（ノート・観察・アンケート）	B	自分の考えを持ち，交流する時間の基準を20分間とし，考えをもたせたり，ノートに記述させたりして交流する。	B	保護者アンケートにおいても「分かりやすい授業」の項目は上がっており、授業をしっかりされていることがわかる。自分の考えをもたせることが大切ではないか。
		自分の考えを交流する	自分の考えを発表したり，ペアで話し合ったりする学習時間を確保する。	A	自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりするのは難しいと強く感じることはない。（観察・アンケート）	A	対話的な学びを今後も継続して行う。	A	市内の学年が２クラスある学校をみると活気がある。人数も影響していると思う。２クラスあると活発で話し合いがよくなされていると思う。
		学びの振り返りを行う	授業のタイムマネジメントにより，授業の終末に「振り返り」を取り入れる。	B	その授業を振り返ることで，わかったことや新しい疑問等の視点で振り返りを行う。	B	学びの振り返りを行うことを目指している。振り返る視点も決めて取り組んでいる。	B	
	学力の基礎を育てる	朝学習の充実	前学年の復習を基本とし、２人体制で個別指導を行う。	A	進んでプリント学習に取り組めている。（観察・アンケート）	A	集中して取り組めている。この体制を継続する。	A	力のある児童（学習面・スポーツ面）はいるが、多くが県南へと出てしまう。県北でがんばる人材がほしい。
		えみっこ検定の充実	実施前後の取組（家庭学習や授業等での練習）を各学年で確実に取り組む。	A	取組を行うことで，課題の内容が１００％定着する	A	児童も意欲的に取り組み、成果も上がっている。	A	
		家庭学習の充実	自主学習Ⅰ（予習・復習）を3年生以上で週３回行う。	B	毎日、学年に応じた家庭学習を続け，学年目標時間を達成することができる。る（ノート、アンケート，がんばりカード）	B	家庭学習時間の確保は前進した。今後は、内容を高め学力の定着に繋げる。	B	家庭の考えで学校にきていない児童もいる。家庭学習についてもいろいろな考えがあるのではないか。
共に生きる心の育成	あいさつ・返事の習慣化	気持ちの良いあいさつの習慣化	気持ちの良いあいさつができるように、週目標や児童会の取組として，重点的に取り組む期間を設ける。	A	自分から進んであいさつやあいさつタッチができる。あいさつカードの取り組みに意欲的に取り組むことができる。（観察・カード・アンケート）	A	「江見小学校から広げるあいさつの輪」をテーマに教職員、児童が一丸になって取り組むことができた。	B	もっとできるのではないか。中学生になるとよくできている。その基礎を小学校でつくっているのだと思う。学校だけではなく地域でもしっかりあいさつができると良いと思う。
		言葉づかい、礼儀の重視	ふさわしいモデルを示し，学級活動で指導したり，週目標の重点項目として取り組んだりする。	B	場に応じた言葉つかいやマナーができる。（観察・アンケート）	B	「さん」呼びも進んだ。場に応じた言葉遣いができるようモデルを示しつつ指導を行う。	B	愛媛大学で交流会をもった。どの児童も丁寧な言葉遣いができていた。逆に少しおとなしい気がしたがどうだろうか。「やるぞ」といった活気がほしいところである。
	夢を育むキャリア教育の推進	キャリア・パスポートの推進	学期初めや終わり，学校行事等で振り返りを行い，道徳ファイルに綴じさせる。	B	ファイリングしたものを振り返り，１年の成長をキャリア・パスポートにまとめる。（カード）	B	総合的な学習の時間を中心に、夢を育む教育「夢育」の推進を引き続き取り組む。	B	子どもに会うことが少ない。地域でも見かけることがあまりない。
		特別の教科道徳の充実	年間計画に沿い道徳的価値を明らかにした授業を年間３５時間実施する。	B	道徳で学んだことや感じたことを生活の中で実践することができる。（道徳ノート・道徳ファイル）	B	年間35時間の道徳の授業は行うことができている。今後、道徳的実践力を高めていく。	B	
		教育相談の充実	児童対象の教育相談と保護者対象の個人懇談をそれぞれ年１回以上行う。また，スクールカウンセラーの先生と相談しやすい環境を整える。	A	必要な時に相談できる先生を見つけ相談することができる。また，生き生きした表情で登校することができる。（教育相談・個人懇談の様子，観察）	A	えみっこポストやえみっこアンケート、スクールカウンセラーによる教育相談など適時行うことができている。	A	
しなかかて健やかな体の育成	リーダーの育成	自主的・自発的活動の推進	児童会活動，学級活動・体験活動で自主的・自発的な取り組みを促し、活動を広げる。	B	意欲的に自主的・自発的な活動を行うことができる。（観察・アンケート）	B	真面目に取り組み意欲t的である。自主的・自発的に活動できる仕組み作りを進める。	B	真面目であるが、自分からやっていくことが少ないのではないか。
	自らの命を守る教育の推進	「命の教育」の推進	保健・安全的行事や保健の授業を通して，命の大切さを学ばせる。	A	自然災害や犯罪から，自分の命を守る意識を高まる。（観察・振り返り）	A	学校教育目標に「安全」を掲げ、避難訓練やがん教育の実践を行うことができた。	A	
		体力の向上	体育の授業や体育的集会活動を通じて，体力の向上を図らせる。	B	持久力や瞬発力，柔軟性など自分の体力の向上を感じることが出来る。（スポーツテスト）	B	体力面は概ね県平均に達している。瞬発力などの今少しのところの底上げを図る。	B	子どもの体力はスポ少でカバーしてもらっているところがある。もっと水泳の授業も取り組んでもよいのではないか。６年生で２５メートル泳いでOKでは寂しい。
	読書活動の充実	本への興味関心を高める	朝読書の時間や図書の時間を通じて，読書活動をしっかり推進させる。	B	生活の中に読書が位置づけられるようになる。（学習状況調査・がんばり表）	B	朝の読書や読書週間の取組など積極的に行った。読書時間の確保がもう少しほしい。	B	
地域の教育力の活用	地域人材の活用	地域人材による多様な学習支援の実	どの学年も年１回は地域人材を活用した授業を行う。また，補充学習を行う。	B	地域の方に教えていただくことで，意欲的に学習に取り組むことができる。（観察・ノート）	B	コロナ禍において可能な範囲で実施した。補充学習は予定の半分の実施に止まった。	B	地域の良さや文化を守ることが必要であると思う。地域のリーダーを育てることが大切だと思う。
		地域学習の実施	どの学年も年１回は地域学習を生活科，もしくは総合的な学習の時間の年間指導計画に位置づけ行う。	B	地域に興味を持ち，地域への関心が高まる。（観察・ノート）	B	コロナ禍において可能な範囲で実施した。	B	学校はスポーツ、文化の中心である。これからもそうあってほしい。
	地域を愛する心の育成	地域に役立つ活動の実施	地域に出かけていく活動，もしくは地域の方を招いての活動を行う。	B	地域の方へ感謝の気持ちを持つことができた。（観察・ノート）	B	コロナ禍において可能な範囲で実施した。	B	地域で守るものと所しいものがあると思う。地域を愛する心は育ててほしい。乗井地区では、若いリーダーががんばっているところがある。
チャレンジする教職員	信頼される教職員	報告・連絡・相談・確認の確実な実行	説明責任が果たせる職務の遂行を常に心がける。	A	学校評価アンケートで，関連項目の指数を高めることが出来た。（アンケート）	A	コロナ禍において報告はより重要になることから、徹底を図った。	A	組織で取り組むことが大切だと思います。
	笑顔の教職員	ワークライフバランスを意識し，笑顔の教職員	在校時間を１１時間，担当者提案は尊重し，決めたことはみんなの笑顔のために協働する。	B	月々の勤務状況の確認と教職員アンケートで，関連項目の指数を高めることが出来た。（観察・アンケート）	B	時間外勤務は減少傾向であるが、数名は月45時間をオーバーしている。組織の変革と職員の意識改革を図る。	B	笑顔がある明るい職場であってください。

令和4年度　美作市立土居小学校　学校評価（内部評価・学校関係者評価）

A：目標を上回った　B：目標をほぼ達成した　C：目標を下回った

学校教育目標	指導の重点	具体的計画	キーワード	今年度の達成目標	自己評価 達成状況	自己評価 評価	自己評価 総評	取組と今後に向けて	学校関係者評価
未来を創る土居っ子の育成 ～学ぶ喜びを感じ、心豊かでたくましく生きる子を育てよう～	（1） 基礎・基本の定着と活用力向上の指導	①「主体的・対話的で深い学び」の実現のために全員参加の授業づくりを工夫する。	単元計画 主体的学び	単元計画が児童と共有され、児童が見通しをもちながら主体的に学習している。	教職員アンケートにおける肯定的回答は６７％と低く、まだまだできていない。	C	C	○『読み取ったことをもとに、理由や根拠を示しながら説明することができる児童の育成』をめざし、年間一人１回以上の公開授業を実施することができた。授業後の感想用紙の回覧や研究協議により、視点をもって授業を分析し、次につなぐことができた。 ○全校統一の話型やきき方・ふり返りの視点を作成・掲示取組により、校内の共通理解を図り、共通した取組ができた。 ●次年度は、現在の取組に改善を加え、児童と共有しながらさらに実効性のあるものにしていくことが必要である。 ●理由や根拠のある説明をする力がまだ十分身についているとは言えないので、継続して取り組む。	○意見を交流することは大切 ○授業の終わりのふりかえりは１時間の学びの確かめとなるよい活動である。 ○教室掲示・整理整頓等環境整備がよくなされている。 ○掲示された児童作品の文字の美しさが素晴らしい。また図画や作文等の作品も優れたものが多く、各種の作品展で表彰されていることも素晴らしい。少人数ならではの良さでもあり、先生方の意図を持ったていねいな指導の表れである。 ○体育授業での手作り補助具は大変効果的。ちょっとした工夫で児童の意識も高まり、できないことができるようになる喜びにつながる。 ○特別支援学級１学年児童が学校生活に適応し、通常学級の中でも落ち着いて学習できていることが大きく評価できる。先生方の指導の賜物である。周りの児童にとっても大切な学びがあると感じる。 ○休み時間のトラブルから気持ちが授業に向かない児童への先生の支援が素晴らしい。 ○●授業の中でのＩＣＴ活用が進んでいることがよくわかる。これからますます必要になってくる力である。 ●謙虚な評価かもしれないが多くのＣ評価をＢ評価に上げるための具体的な方策を考えていく必要がある。 ●授業の中で、発表場面がやや少ない。しっかり話し合いをさせたい。
			考え　理由 根拠　説明 協働的学び	児童が自分の考えをしっかりもち、根拠や理由を示しながら説明することができる。	児童アンケートでの肯定的回答は７７％と８割に達していない。要求されれば説明できるが、進んでというまでには至っていない。	C			
			意見交流 問い返し 話型・聞き方	児童相互の意見交流の機会を大切にし、互いにつながり、考えを広げ深める授業を展開している。	教職員アンケート肯定的回答は３３％と低い。全校統一の話型や聞き方のポイントを作成したことで、意見をつなぐことについて児童の意識は芽生えているが、まだ身についているとは言えない。	C			
			ふりかえり 深い学び	一時間一時間の学びがより深まり、さらに次の学びへとつながるように、授業におけるふりかえりを工夫している。	低中高学年で統一したふりかえりの視点をもとに、児童の成長や変容を見取り、次の学びにつながるよう工夫することができた。 （教職員アンケート肯定的回答割合、２学期は１学期より向上）	B			
		②特別支援教育と生徒指導の視点をもった授業に取り組む。（自己肯定感と自己有用感の育成を重視）	支援計画 指導計画 個別最適な学び	児童一人一人の実態をふまえて適切な指導と支援を行うとともに、学級全体を規律ある集団として高めている。	教職員アンケート「１日１回はほめる」の肯定的回答は８８％と心がけていることがわかる。個を大切にしながら、集団としての規律も大切にして指導した。	B	B	○個別の指導計画を作成し、全職員で共通理解して指導した。また、定期的に見直しをすることもできた。 ○学習規律について、定着を目ざし、継続的に指導した。 ○授業の中で友達を意識して活動している。 ●次年度も個別の指導計画を立て、指導に生かす。	
			自己肯定感 自己有用感 受容	学習規律が定着し、授業の中で互いを認め合い、自己肯定感と自己有用感を高めている。	児童アンケート「学習開始時刻を守る」肯定的回答１００％と非常に高い。 「授業における友達を意識した発表」肯定的回答８６％	B			
		③基礎学力・基礎技能の定着を図る。	土居小タイム 学サポ 漢字計算検定	土居小タイム・主体的な学習の基盤づくり事業・年間３回の漢字計算検定等の取組を継続して行い基礎基本の確実な習得につなげている。	教職員アンケート肯定的回答は８８％と高い。 計画した取組が予定通り実施できている。漢字検定を現学年のみにしたことにより負担は減ったが、定着の有無については、次年度検証していく必要がある。	B	B	○漢字計算検定について、計画通りに実施でき、３学期には独自学力テストと合わせて負担がないよう改善することもできた。 ○基盤づくり事業についても、担任と指導者の共通理解など年度途中に改善ができた。 ○タブレットを定期的に持ち帰り、効果的な活用ができた。 ●基礎基本定着の取組について、時間設定と内容を考えていく。	
			タブレット ドリル	デジタル教科書やドリルなど、タブレット端末を効果的に活用している。	２週間に一度タブレットの持ち帰りに取り組んだ。宿題にタブレットドリルを活用した。	A			
		④家庭と連携して、家庭学習の習慣化をめざし、読書活動や自主学習を推進する。	家庭学習の 手引き 家庭との連携	家庭学習の手引きを活用し、家庭と連携しながら各学年の家庭学習時間目標の達成と、内容の充実を図っている。	教職員アンケート肯定的回答は１００％と非常に高く、授業との連動を図ることもできた。 家庭学習の手引きの配布が遅くなった。各学年の家庭学習目標時間は、８０％の児童が達成できている。	A	B	○家庭学習の手引きを配布活用することで学習時間や内容の助けになっている。 ○優れた自主学習ノートを児童のよく目に付く場所にコメントを付けて掲示することが、児童への意欲付けとなっている。 ○読書手帳の活用、定期的な学級文庫の入れ替えにより読書の推進ができた。 ○学校だけでなく家庭での読書推進にも積極的に取り組むことができた。（親子読書） ●家庭との連携が大切。習慣づいていない児童（家庭）への働きかけを考えていく必要がある。	
			ぐんぐん ノート	自主学習ノート（ぐんぐんノート）を積極的に活用し、学習の幅を広げ、深めている。	自主学習ノートを毎日している児童の割合は８４％と高く、定着していることがうかがえる。	B			
			読書活動 親子読書	学校における読書活動の推進はもとより家庭と連携して年間３回の親子読書に積極的に取り組む。	児童アンケート「「読書時間は集中している」肯定的回答９５％、「進んで読書」７７％、保護者アンケート「親子読書を子育てに生かす」５９％と低い。	B			

未来を創る土居っ子の育成　～学ぶ喜びを感じ、心豊かでたくましく生きる子を育てよう～	（2） 豊かな心とつながる力を育む指導	①一人一人のよさを認め合い、支え合う学級集団づくりを土台として、信頼する心や自分の力で問題解決に向かうたくましい心を育てる。	「くらしのやくそく」「六か条」	土居小学校の全ての児童がきまりを守って、笑顔で幸せに過ごすことができるよう、「くらしのやくそく」「土居小みんなが笑顔ですごすための六か条」を効果的に活用し、児童が主体的に活動することを意識しながら指導する。	児童アンケート「友達と仲良く勉強したり遊んだりしている」肯定的回答９５％、保護者アンケート「いじめや仲間はずれを許さない学級・学校づくりをしている」肯定的回答９１％で一人一人が落ち着いた心穏やかな学校生活を送ることができている。	A	A	○「くらしのやくそく」「六か条」など既存のものを活用し繰り返し指導することで、児童の意識が高まったように感じる。６年生児童のポスターによる呼びかけ等主体的な活動にも結びついている。 ○「あいさつ」「くつそろえ」の２つについて、全校・全職員で取組ができ、落ち着いたくらしにつながった。 ○帰りの会での「よいところみつけ」に年間通じて取り組み、１２月の人権集会では全校あげての取組、見える化もできた。 ○年間３回のあいさつ運動の取組では、各学級の工夫した標語や呼びかけ等児童の自主性を育てる活動となった。 ○教職員アンケート「子どもの良さを認める」項目において肯定的回答が６３％（６月）→８８％（１２月）と大幅に向上している。 ●自己肯定感・自己有用感は学年が上がるにつれ、また複式学級の下学年で下がる傾向にあるので今後注意する必要がある。 ●児童一人一人の良さを認め具体的にほめて伸ばしていくことを今後も意識する。 ●行事や諸活動における確実で具体的な目標設定とふり返り・成長の自覚をさせることにより、成功体験・感動体験を積ませる。 ●ＰＴＡ（生活安全部）を巻き込んだあいさつ運動の取組を実施したい。	○子どもが大変明るい印象である。先生との関係も良好で、のびのびと学校生活を送っていることがうかがえる。 ○先生方が子ども一人一人を大事に育ててくださっていることがよくわかる。認められることで次のやる気につながっていく。 ○●縦割り活動はどの児童にとっても学びが大きい。いたわりや心遣い等、経験しながら学んでほしい。 ○●幼小連携の授業は、互いに大きな学びがある。土居小ならではのこの取組を、今後も続けてほしい。 ●不適切な言葉（うざい等）が聞かれたときには、毅然とした態度で、いけないことはいけないときちんと指導することが必要である。 ●６年児童が発信した地域への提案を、一つでも実現してやりたい。
			集会活動 学校行事 学級活動	行事や集会、学級での活動の中で児童一人一人が認められたり、人の役に立ったりする機会を増やすことで、自己肯定感・自己有用感を育てる。	目的や意図を明確にして、集会を実施した。児童も進んで参加していた。（児童アンケート「行事や集会活動への積極的参加」項目における肯定的回答９８％） 「よいところみつけ」の活動を年間通して全学級で行ったが、児童アンケートにおける肯定的回答「自己肯定感」「自己有用感」ともに７５％と、高い結果にはならなかった。	A			
			あいさつ 運動 家庭との連携	家庭や地域と連携し、あいさつ運動やその他の取組を通して気持ちの良いあいさつを推進し、望ましいあいさつが実践できる児童を育てる。	アンケート「あいさつ」についての肯定的回答は教職員９１％と高いが、児童７５％保護者８０％という結果で、指導はしているが定着は今一歩という結果である。地域の関係機関（民生委員児童委員・交通安全協会等）の協力を得ることができたが、家庭との連携はできていない。 （ＰＴＡ生活安全部）	B			
			縦割り集団 異学年交流 リーダー	縦割り班活動を年間通して計画的に実施し、それぞれの立場で活動に主体的に取り組むことができる。６年生はリーダー、５年生はサブリーダーとして企画運営に積極的にかかわることができる。	６年生が縦割り活動を計画的に企画・運営し主体的に取り組んでいた。リーダーとしての成長が大きい。（アンケート結果肯定的回答１００％）５年生も８８％と高評価であった。	A			
		②「ふるさと学習」において地域人材や環境を積極的に活用する。	生活科 総合的な学習	各学年の年間計画に基づいた「ふるさと学習」において、地域の方と積極的にふれあい、関わりながら、主体的に課題を解決することができる。	コロナ禍ではあったが、地域の方と連携を図り、年間計画通りに活動を実施することができた。（教職員アンケート「地域との連携」肯定的回答８９％） 児童は地域の方と活動することを楽しみ、積極的に関わる姿が見られた。	B	B	○地域の方が、児童との交流を楽しみにし、心から喜んでくださっていることが感じられる。ありがたい限りである。 ●地域の方にしてもらうだけにならないよう、企画・準備・運営等において児童の自主的な活動も考えていく必要がある。	
		③地域に発信・貢献できる地域交流を行う。	生活科 総合的な学習 感謝の会	地域と関わる学習での学びを発信したり、地域の方へ感謝の思いを伝えたりする活動を通して、ふるさとの人や環境・文化等のよさを感じ、ふるさとを大切に思うことができる。	土居宿マラソン・まちかどコンサートにおいて、日頃の感謝の思いを伝えることを指導し、行事の価値を高め、児童の意欲も高めた。感謝の会でのお手紙も、思いを伝える活動として定着している。 青パト隊の見守り活動休止に伴う感謝の会を実施し、児童及び保護者より感謝の気持ちを伝えることができた。	A	A	○地域の方への感謝の思いを言葉や態度できちんと伝えることを指導し、児童の地域やふるさとを大切に思う意識が高まっている。 ○学習発表会において、６年生が地域の方から学んだことをもとに発表内容を組み立て発信することができた。 ●感謝の気持ちをもつ、その気持ちをきちんと伝えることを今後も継続して指導する。	
		④中学校区を中心とした保幼小接続と小中連携の充実を図る。	幼小 接続授業	幼小接続授業を通して、児童が各学年のねらいを達成し、自己肯定感や自己有用感を高めることができる。	計画通り実施できた。授業前の打合せと授業後の反省を、幼小の職員で確実に実施し、次年度に引き継げるよう記録に残した。	A	A	○本校の特色ある取組の一つに、土居幼稚園との接続授業がある。それぞれのめあてを担任同士で確認しながら活動に臨み、成果と課題を明らかにすることができている。園児・児童の自己肯定感や自己有用感の向上にも大いにつながっている。 ○中学校との連携授業も、定着してきており６年生の進学後の不安を払拭し、希望をもつことにつながっている。 ●幼小・小中連携を今後も継続していく。 ●教育連携会を校内研修と絡めていく必要がある。	
			小中 連携授業	小中連携授業を通して、６年生が中学校での学習や生活を不安に思うことなく、安心感や期待感をもって入学を迎えることができる。	今年度も計画通りに実施した。（英語学期１回江見小と合同・中学校にて、算数年間２回・本校にて、体育ボール運動年間１回・本校にて）	B			
			中学校区 教育連携会	作東中学校区教育連携会の活動に積極的に参加し本校の取組を発信したり、研修したことを積極的に本校の取組に取り入れたりすることができる。	全体会や各部会に、積極的に参加することができている。	B			

未来を創る土居っ子の育成　～学ぶ喜びを感じ、心豊かでたくましく生きる子を育てよう～	（３）命と生き方を大切にする指導	①一年間を見通した体力づくりを行う。	岡山っ子運動習慣カード マイベストチャレンジ	岡山っ子運動習慣カード、マイベストチャレンジ等に積極的に取り組み、体を動かし、外で元気に遊ぶことが習慣となっている。	休み時間は外で遊ぶ元気に遊ぶ児童が多く、新体力テストにおいてよい結果となった。（全学年において偏差値が全国より１０％高い。昨年比＋７％）運動習慣カードやマイベストチャレンジにも取り組み、意欲につながった児童もいる。	A	A	○県の取組等を活用することにより、外で遊ぶ児童の数が増え、体力や運動習慣の向上につながった。 ○土居宿マラソンと関連づけて業間マラソンに取り組んだため、めあて意識がはっきりともて、よかった。 ●運動が苦手な児童や、高学年女子児童等にも運動意欲がもてるような活動を工夫して仕組んでいく必要がある。	○多分野にわたるさまざまな取組みにより、多くの成果を上げていることがわかる。 ●今後児童数が減少すると、さらにいろいろな問題が生じてくることが予想される。今まで以上に保護者との連携が必要である。また、保護者間の連携を深め、学校を介さなくても子育てについて互いに相談し、解決できるよう、ＰＴＡ活動の中で進めていく必要がある。家庭学習の定着・向上にもつながる。
			業間マラソン	土居宿マラソンを目標に業間マラソンに積極的に取り組み、本番当日には練習の成果を生かし、最後まであきらめないで走りきることができる。	目標をもってマラソン運動に取りくむことのできた児童が多いが、偏りが見られ、意欲がもてず力を出し切ることができなかった児童もいる。	B			
		②生活安全・交通安全・災害安全を身に付ける授業や避難訓練の充実を図る。	避難訓練 交通安全教室	避難訓練・交通安全教室・通学班会などの安全に関する学習に意欲的に取り組み、安全に生活するために必要な事柄を身に付けることができる。自他の生命を尊重したりすることができる。	安全的行事に真剣に取り組み、安全についてしっかり考えることができた。通学班会では地区ごとに安全な通学ができた。 保護者アンケート「安全・事故防止」肯定的回答９０％と高い。	B	B	○学期１回の避難訓練を、状況や具体的な動き等について職員で綿密に打合せをした上で実施したため、より効果の高い活動となった。特に不審者対応の訓練では外部から講師を招聘したこと、あらかじめ職員のみで予備訓練（シミュレーション）を行ったことで充実したものとなった。 ●今後も計画的に、また工夫しながら実施していく。	
		③自らの命を大切にする生活習慣を獲得する。	歯みがき指導	外部講師による歯みがき指導により、正しい歯みがきの習慣を身に付け、実践することができる。	コロナ禍で指導内容を変更したが、歯科衛生士による歯みがき指導を実施し実践につながった。	B	B	○計画していた内容は、ほぼ予定通りに実施することができた。 ●心の成長についての児童への指導の場を設定する等、スクールカウンセラーとの連携も今後深めていきたい。 ●次年度複式学級になることをふまえ、性に関する指導についての指導内容を検討していく必要がある。 ●メディアコントロールについては実態を踏まえながら、継続して指導していく必要がある。また、家庭への啓発・家庭との連携が必要である。	〈全体を通して〉 ○知徳体のバランスの取れた素晴らしい学校経営がされていることに敬意を表する。教育の根本である。また管理職二人の関係の良好さがうかがえる。学校や職員の安定につながる大切なことである。 ○経営方針を十分理解し、それに沿って実働した教育活動をされている一人一人の先生方に敬意を表する。 ●土居小学校の今後のために、学区の緩和等の方策があればありがたい。 ●令和７年度、市内全校で完全実施予定の学校運営協議会について、まだまだ分からない点が多い。市（市教委）としてきちんと示すことが必要である。また運営委協議会会員研修も必要である。
			病気の理解 がん教育等	さまざまな病気についての正しい理解を深める。外部講師によるがん教育を通して、病気についての正しい理解を深め、患者の方の思いに寄り添うことができる優しさをもつ。	外部講師を招いて、がんという病気について正しい理解を深めることができた。（６年・６月）	A			
			性に関する指導 LGBT	年間計画に基づき、各学年の発達段階に応じた性に関する指導に取り組み、体の成長についての正しい知識と意識をもたせる。また、LGBT についても、正しく理解させる。	年間計画に基づき、各教科と関連した指導により、体の成長について理解させることができた。	B			
			情報モラル メディアコントロール	情報モラルの必要性について学習し、身に付けることを通して、望ましい情報社会の創造に参画しようとする。	児童アンケート「メディアの約束を守る」肯定的回答６３％ 保護者アンケート「メディアのルールがある」肯定的回答７１％と低い状況である。	C			
		④生活に根ざした道徳教育と人権教育の推進を行う。	なかよし集会 人権週間	発達段階に応じて、基本的人権についての正しい理解を深め、豊かな人権意識が育っている。また日常生活において相手を大切に思う行動が実践できている。	児童アンケート「友達が困っているときには声をかけている」肯定的回答９５％、 人権の花活動、平和学習について、担当を中心に計画的に取り組むことができた。	A	A	○道徳教育については、道徳教育推進教師を中心にどの学級においても計画的に授業を実施し、保護者と学びの足跡を共有したり、授業を参観していただいたりすることができた。 ○人権の花活動・平和学習に学校全体で取り組み、児童に人権意識・人権感覚を育てることができた。 ●道徳教育・人権教育の取組やその成果を家庭と共有する。 ●人権の花活動・平和教育には、来年も取り組む。 ●人権講演会を来年度も講師を招聘して実施し保護者にとって学びの多い研修となるようにする。	
			保護者への授業公開	年１回は保護者対象に道徳の授業を公開して取組の様子を伝えたり、道徳教科書・ノートを家庭に持ち帰らせたりすることにより、家庭と価値を共有している。	人権参観日において全学級が道徳の授業を公開した。道徳ノートも計画通り持ち帰りができ、家庭との価値共有もできた。	A			
			ＰＴＡ 人権講演会	人権参観日当日、保護者を対象に人権講演会を実施し、家庭と学校とが連携しながら、子どもを育んでいくという思いをもつことができるようにする。	人権講演会を参観日に実施し、一人ひとりの子どもたちの自己肯定感を高めるために、保護者が常に子どもに関心をもち、子どもの話を共感的・受容的に聞くことやよさを見つけ認めていくことなどについて考えることができた。	B			

令和4年度　美作市立英田小学校　学校評価書

美作市立英田小学校長　春名章範　印

【取組の概要】

◎多様な立場の人々と豊かに関わり合い、共生しつつ、また、刻々と変化する社会環境にしなやかに対応し、豊かに人生を生き抜く資質を身につけるために、岡山県並びに美作市の教育方針のキーワード『夢』等を踏まえ、**【学校教育目標】共に伸びる英田っ子　～かしこく　やさしく　たくましく～**を掲げた。目指す児童像として、**自分で考えてやってみようとする児童・相手を思いやり伝え合おうとする児童**を設定した。その具現化を目指し、本校PTA、英田中学校区学校運営協議会等と協働し、教育活動を推進した。

◎特に、全ての教育活動において、**『意図ある授業・行事の日常化』を合い言葉**に、学習指導要領内容を強く意識した。計画・実施・振り返りにより『目指す児童像』の具現化に繋がるよう、令和2・3年度に作成した**授業計画シート・行事計画表等を利用しつつ**実践を重ねた。また、美作市事業「特別支援教育の視点をもった授業づくり推進事業」を受託し、**英田中学校区並びに本校における重点課題である特別支援教育**の視点を授業者がもれなく身につけることができるよう学校全体を挙げて取り組んだ。

1　令和4年度実施の学校教育活動等に係る結果・現状（抜粋）

（1）児童の学力に係る状況・授業に係る意識等について

着実な学力定着状況が見られる学年がある一方、学習状況全般に大きな課題を抱える学年の状況は継続している。

第6学年 全国学力・学習状況調査	【国語】79（+12p）【算数】76（+14p）【理科】77（+13p）：（県比較） ※無回答率は3科目とも0%

全校児童を対象としたアンケート結果によると、授業中の「考えること」・「伝え合うこと」について肯定回答割合はそれぞれ88%であり、児童の意識は向上している。

	自分で考えてやってみる				相手を思いやり伝え合う			
項目	❶	❷	❸	❹	❶	❷	❸	❹
1年	5	5	0	0	5	5	0	0
2年	4	9	2	1	11	3	2	0
3年	3	9	1	0	4	7	2	0
4年	0	5	1	2	0	3	3	2
5年	7	12	1	0	9	11	0	0
6年	3	5	0	1	4	4	0	0
合計	22	45	5	4	33	33	7	2

※❶よくできている～❹できていない

(2) 生活に係る状況について

年間3回の「ぱっちり!モグモグパワーアップ週間」を各家庭・保護者と連携して実施した。特に、『お楽しみメディア時間(ゲーム・動画視聴等)3コース』を自分で選択する取組を重視した。学校保健委員会での薬剤師からの講義内容(メディア依存)、PTA学級役員と連携した学級保健目標の設定(基本的生活習慣に係る内容)と連動し、生活状況の更なる改善・向上を目指した。

メディア依存状態児童の割合減少	(年度当初) 20% → (12月調査) 13%

2 保護者による学校評価アンケート結果(抜粋)

■(学校の教育に係る肯定回答 R3年度→R4年度比較)

質問項目	令和3年度	令和4年度
◎子どもたちは楽しく学校に通っている	90.0%	92.8%
◎子どもたちはよくあいさつをしている	77.1%	82.8%
◎学校には子どもたちが相談できる先生がいる	85.5%	88.6%
◎学校の教育活動の様子は通信等で知ることができる	95.7%	100%
△子どもたちは授業は楽しくわかりやすいと思っている	91.3%	88.6%
△新型コロナウィルス感染防止の取組を推進している	95.7%	90.0%

■(家庭の様子に係る肯定回答 R3年度→R4年度比較)

質問項目	令和3年度	令和4年度
◎メディア利用のルールを決めている	81.1%	85.7%
◎朝ごはんなど食生活に気をつけている	95.6%	97.2%
△早寝早起きができている	84.0%	81.5%
△「おはよう」「おやすみ」などのあいさつがよくできる	93.3%	87.1%

■5.6年生（回答者：26人）児童アンケートから肯定回答割合

質問項目	令和4年度	
・学校に行くのが楽しい	23人	88.5%
・授業は楽しくわかりやすい	24人	92.3%
・学校には相談できる先生がいる	20人	76.9%

保護者も子どもも多くが、学校生活を楽しいと感じ、教職員の支援体制にも概ね満足である状況が分かる一方で、家庭での基本的生活習慣（食事・挨拶等）は低調である。

3　教職員自身による評価・教職員による校長（学校経営）に対する評価について

山下教頭（授業改革推進R）訪問と併せ、定期的に教職員自身が授業への取組を評価

目指す児童像実現に係る視点 （授業者による自己評価）	自力解決場面を意識した授業展開　平均2.9p　（目標値3.5p） 交流場面確保を意識した授業展開　平均2.7p　（目標値3.5p）

目標に掲げたレベルには至らず。経験年数の長短問わず、現在求めらている授業形態や意義について、今後も、全体・個々へと研修等により働きかけが必要な状況である。

■教職員（回答者：11人）　学校評価アンケートから（学校経営に係る肯定回答）

質問項目	令和4年度	
・校長が学校教育目標や経営方針など教職員や保護者にわかりやすく伝えている	11人	100%
・校長の強いリーダーシップの下、組織的・協働的に教育課題解決に向けて取り組んでいる	11人	100%

4　英田中学校区学校運営協議会での総括について

令和4年度学校運営協議会（会議3回　参観週間2回実施）にて、中学校区の取組を報告し、委員からの意見・質問等により学校園の取組を整理した。2期6年間の美作市教育委員会による指定も区切りの年度を迎えた。幼児園・小学校・中学校3校園の取組について理解深化、概ね、学校園の取組については高評価を得た。（詳細は別紙まとめ等）

※英田中学校区学校運営協議会（美作市教育委員会指定）　現在第3期申請中
【第1期】　平成29年度～令和元年度　　【第2期】　令和2年度～令和4年度

5　令和5年度に向けた取組と学校教育目標実現のための取組等整理
（経緯等）

研究指定等	概要
<H30・R1> 協同的探求学習（県指定）	・互いの考えを交流する場面の重視 ・多様な価値観の交流　認め合いの風土醸成
<R2 ・R3> 学習指導要領を踏まえた「意図ある授業・行事」の日常化試行 （県教委・岡大教職大学院研究との連動）	・R1までの校内研究を引き継ぎつつ、『目指す児童像』を全教職員の熱議により整理 ・目標具現化の取組を授業・行事で表出目的 ・「自分で考える場面」「交流する場面」を授業計画シートや3部会制を活用して推進
<R4> R3までの取組の理解深化と定着 美作市教育委員会 「特別支援教育の視点をもった授業づくり推進事業」	・全ての授業者が、学習指導要領と学校教育目標を十分理解し、「何のために」「どのように」「どうなることを目指して」と語れるような教員集団・職員間の雰囲気醸成を目指す。 ・全職員による全児童の現状を踏まえた支援のあり方を考える体制・授業づくり推進

6　その他（表彰等）

○令和4年度美作市顕彰式典　【功労賞】　英田中学校区学校運営協議会

○令和4年度岡山県教育委員会生活リズム向上優良校表彰　【優秀賞】　英田小学校

7　次年度以降の方向性等

【令和5年度　学校教育目標】
共に伸びる　英田っ子　～かしこく　やさしく　たくましく～

【目指す児童像】　◎自分で考えてやってみようとする児童
◎相手を思いやり伝え合おうとする児童

※引き続き、「意図ある授業・行事・活動の日常化」を合い言葉に、令和4年度までの研修の歩みを確かめつつ取り組む。

特に、学習指導要領と学校教育目標を十分理解し、「なぜこの時間に・この活動で（教科・行事等）」・「何のために」・「何を」・「どのように」・「どうなることを目指して」を繰り返し意識できるような研修を行う。

※異動後の職員には、特に丁寧に、本校の過去数年間の取組内容・意図を説明し、全員が同じレベルで研究の方向性を語ることができるよう、年度当初の確認作業を時間をかけて丁寧に行う。研究授業をするためでなく、明日の1時間 を充実させるための授業づくりについて語り合う時間を設定する。

特に、教職員組織は年齢が若く、経験値の低い担任もいるため、全ての職員が遠慮せず、尋ね合えるよう配慮する。

※特別支援教育の視点を本校並びに中学校区の子どもの実態と照らし合わせつつ、学び、児童・保護者理解を深め、授業づくりの視点・手段を豊かにする。

特に、新年度においては、児童・保護者共に特別な配慮を要する児童の割合が高い（約50%）ことが想定されるから、通常学級での取組について、美作市指定事業を継続して受託し、講師の指導を受けつつ、中学校区挙げて授業研究等を推進する。

※英田中学校区学校運営協議会、PTA、地域関係者等に本校の児童現状、取組の概要と注力点を繰り返し説明するなど留意する。

特に、これまで取り組んできた地域の事業所や活動・地域の方々との協働により実施されてきた授業内容の価値を再認識すると共に、内容や活動方法を精査し、地域と協働した教育活動の展開を心がける。

令和４年度　美作市立勝田中学校　学校評価書

学校教育目標	夢を拓き、確かな学びと豊かな心、たくましく生き抜く力を育む ～学びをひらく　心をひらく　未来をひらく～	１学期、２学期は各アンケートの肯定的な割合を％表示しています。 評価基準　A：目標を上回った（85％以上）　B：ほぼ目標通り　C:目標を下回った（50％以下）

指導の重点	具体的な取組	具体的評価の観点	１学期末	２学期末	年間評価	達成状況と次年度へ向けての改善点	総合評価	学校評議員会の意見
確かな知力を育てる	生徒のやる気を引き出す授業づくりを行う。	生徒【外部評価アンケート】 ②授業はわかりやすく楽しい。	80	91.8	A	学期が進むにつれ学習の難易度が上がってくる。昨年度の反省から、丁寧でわかりやすい授業（授業のユニバーサルデザイン化）になるように研修会を企画し、研修を行った成果が現れてきている。	A	○経年推移も見ながら、生徒の実態に応じた支援も大切だと思う。 ○「分かった気になっている」ところで終わらずに、できるようになるまで個別の支援もていねいにしていってほしい。 ○活用問題にも対応できるだけの基礎学力をしっかり身に付けさせてほしい。 ○読解力は全ての教科で重要となる。国語の力は、短時間ではみに付かないものなので、長期的な取組もしながら、読解力や情報処理能力をしっかりと身につけさせてほしい。
		【教職員アンケート】 ②授業ではChromebook等のICT機器の活用を行った。（視覚支援活動）	72.7	80	B	ICT機器を導入し、視覚支援に訴える授業づくりを昨年より進めている。本年度はICT機器を使った研究授業の研修を行った。また、コロナ禍でのオンライ授業もスムーズにできるようになった。		
		【教職員アンケート】 ③学び合いや表現活動の時間を確保した授業を行っている。	81.8	90	A	意識的にグループ学習に取り組み、授業の中でも定着してきている。次年度は生徒の考えを交流するだけで無く、深い学びにつながるように課題の設定の工夫をしていく。		
豊かな心を培う	違いを認め合い、支え合い、高め合う支持的風土の学級集団づくりを行う。	生徒【外部評価アンケート】 ①学校へ行くのが楽しい。	75	86	B	学校へ行くことが楽しいと感じられる生徒がどのアンケートでも８割近く肯定的な回答が見られる。来年度に向け少しでも楽しく感じられるように継続指導を続ける。	B	○生徒が作成した行事等のまとめの成果物からも、取組による生徒の成長が感じられる。 ○生徒の協力している姿も伝わってくる。
		【教職員アンケート】 ①SST（他者との関わり方のトレーニング）を通して、よりよい人間関係を築くスキルを身につける取組を実施できたか。	54.5	50	B	意図的に他者との関わり方を意識した授業を行っているが、担任が中心のため肯定的な％が低い。次年度も子どもたちのスキルアップの取組を継続していく。		
		生徒【外部評価アンケート】 ③学校の行事が楽しみである。	82	89	A	コロナ禍でも少しずつできることから行事をすすめていった。子どもたちは自分たちで学校の行事を通して達成感や成就感を味わえている。次年度も子ども達の活躍の場面を増やしていきたい。		
健やかで、忍耐力のある心身を磨く	心身ともに健康で社会に貢献しようとする心と忍耐力を培う。	生徒【外部評価アンケート】 ⑤授業や服装、頭髪などの決まりを守っている。	98	95.8	A	授業等で迷惑がかかったりすることも無い。２学期より生徒会を中心として生徒の実態に沿うように校則の見直しを行った。来年度以降の実施に伴い、今以上に社会性を養う判断力を育てていく。	A	○謙虚な姿というのは、ある意味日本人のよさとも捉えることができる。自分を感じたり、自分をアピールする力の養成は、長期的な視野を持った取組が必要である。 ○学習面でも、分からなかったことが理解できたり、できることが増えたりすることでも、自分自身に自信がつき自己肯定感の向上にもつながると思う。 ○努力したことをしっかりと褒める（認める）ことを継続するとよい。
		生徒【外部評価アンケート】 ④友だち、先生、地域の方などにあいさつするよう心がけている。	96	93.7	A	地域の方から中学生は挨拶ができるとお褒めの言葉を戴くこともあった。生徒会活動（朝の挨拶運動、挨拶マスター表彰など）を中心に次年度も取り組んでいきたい。		
		【学校評価アンケート】 ⑨自分には良いところがある。	74	77.6	B	自己肯定感の向上は、中学校区の課題として挙げられる。１５年間を見越して継続的に生徒の努力した過程を認め、課題に対して主体的に自己解決できる力を養う。		
かつたっ子15の春プロジェクトの推進	異校種間の連携推進と地域に開かれた学校を目指す。	①異校種間の連携授業回数	7	10	A	小学５，６年の英語の授業や小学生と合同の集会、講演会などコロナ禍でも停止すること無く行った。また、本年度の新しい取組として学びの集会で『座談会』を行い、小学生が直接中学生と考えを交流する場になった。	A	○保小中の連携が、よくできている。 ○学びの時間（小学生の英語授業）の様子も、児童が英語で会話しながらコミュニュケーションをとれているのもよい。 ○学習面においても、小学校からの積み上げが大切なので、しっかりと連携を継続していく必要がある。
		②連携だより発行回数	1	1（＋1）	A	昨年と同様に連携だよりを年間３回発行し、ホームページにも掲載し、異校種間の連携の様子を地域にもアピールできた。		
		【学校評価アンケート】 ⑩中学校区の校・園が連携して異校種間のつながりを意識した一貫性のある教育を行っている。	90.9		A	教職員アンケートからも勝田地区は異校種間の連携に自信をもっている様子がうかがえる。		

別紙 ①

令和4年度　美作市立大原中学校「重点目標と目標達成のための手立てと評価」

（A：達成できている、B：概ね達成できている、C：達成が不十分である）

令和5年2月14日

	重点目標	目標達成のための手立て	具体的な評価基準	中間評価	中間期の達成状況と後半に向けての対応	年度末評価	達成状況と次年度に向けての対応	総合評価
確かな学力	基礎基本を徹底し、確かな学力を身につけさせる。	「分かった・できた・楽しい」授業づくりのために授業力を向上させる。	生徒が授業を楽しいと感じ、主体的に授業に取り組む工夫を行う。	A	7月の学校評価アンケートにおいて「授業は楽しくわかりやすい」の項目での肯定的意見が生徒90%で概ね評価できる。	A	12月末の学校評価アンケートにおいても「授業は楽しくわかりやすい」の項目での肯定的意見は生徒87%であり、概ね評価できると考えられる。	A
			授業のまとめや振り返りの活動を丁寧に行う。		肯定的に捉えている生徒や教職員が多くなっている。教科で偏りが見られるところもある。		中間期学習状況調査（2年）では、振り返る活動をよく行っていたかの問に対し、肯定的意見は74.3%であり、4月より8ポイントほど下がった。	
			一人一台端末の利活用を行う。		各教科で活用がなされているが、教科間や教員間で頻度に差が出ている。		校内では授業や健康観察等で活用がなされている。また、12月より持ち帰りを行っており、家庭で学習する際の活用もできるようになった。	
		授業と家庭学習の連動を図り、家庭での学習習慣を定着させる。	授業の振り返りと課題の出し方をつなげ、サイクルとフィードバックの取組を行う。	B	「授業内容の課題をスモールステップで課している」と回答した教職員は78%であり、まだ改善できるところは多い。	B	課題をスモールステップで課すことについては、前回調査より6ポイント下がっている。更に意識した取組が必要である。	
			こども園・小学校と連携し保護者へ働きかけ、メディアコントロールの取組を充実させる。	A	学びの連携や生徒会本部の生徒との協働で取り組むことにより、成果が上がっている。	A	継続して、取組が行われており、その成果は上がっている。もっと生徒が主体的に取り組めるよう進めていけたらよい。	
		ふるさと学習に取り組み、郷土を愛する心情を育む	道徳、学活、総合的な学習の授業を体系化し、ふるさと学習の充実を図る。	B	総合学習等で地域に根差した学習を計画しているが、充実には至っていない。	A	1年生では地域学習でフィールドワークを行った。また3年生では今まで学習してきたことをもとに地域の課題に目を向ける活動を行った。	
			道徳郷土資料、サクセスフルセルフの授業により自己肯定感を育む。		計画的に実践することができ、i-checkの結果にも取組の成果が反映されている。		年間を通して、計画的に実施することができた。	
豊かな心	豊かな人間性を育み、いじめを許さない温かい集団づくりに取り組む。	自分のよさに気付き、自他ともに大切にできる心情を育む。	人権意識を育て、いじめを許さない態度を身につけさせる。	A	「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒は97%となっている。	A	学年団を中心に、人権に関する学習を行っている。	A
			学校生活の満足度を高め、愛校心を育む。		学校に行くのが楽しいと回答した生徒は90%と、満足度の高い生徒が多くなっている。		12月末の学校評価アンケートにおいても「学校に行くのが楽しい」の項目での肯定的意見は生徒90%であり、概ね評価できると考えられる。	
		積極的な生徒指導により落ち着いた生活環境をつくり、規範意識を醸成する。	生徒会活動等で生徒が主体的に活動する場面を設定し、生徒の自治力を伸長する。	A	新しい企画や取組を生徒が考えて実践し、全校の意識も向上しつつある。	A	生徒会サミット、メディアコントロール週間、集会での校歌等に積極的・意欲的に取り組んだ。	
			行事や体験活動等を通して、自己肯定感、自己有用感を育成する。		体育祭、文化発表会等の行事等を通して生徒に活躍の場を与え、達成感や充実感を感じられるように取り組んだ。		その都度褒めたり評価したりすることを教職員が意識して行い、プラスの声かけが増えた。	
		個々の生徒の課題解決に向けて取り組む。	生徒理解を深め、寄り添い支え合いながら課題解決に向けて具体的な支援を行う。	B	学校評価アンケートにおいて「学校には相談できる先生がいる」の項目で肯定意見が生徒63%でやや低い結果である。	B	学校評価アンケート12月において「学校には相談できる先生がいる」で肯定意見が生徒63%、保護者70%でやや低い傾向である。教育相談体制の充実が必要である。	
			SC、SSW、外部機関と連携し長欠、不登校傾向の生徒の支援を組織的に行う。		定期的に不登校対策委員会開催し、外部機関等との連携も進んでいるが、大きな改善には至っていない。		大きな改善には至っていない。不登校対策委員会から重層的支援等外部との連携を進めるケースもある。	
保護者・地域連携	学校と保護者の信頼関係を深め、地域とともに発展する学校づくりを目指す。	保護者、PTA、学びの連携等、地域や外部関係機関との連携協力を推進する。		A	コロナ禍で制約がある中ではあったが、工夫しながら取り組むことができている。	A	制約がある中、工夫しながらできることに取り組んだ。来年度の活動に向けて意見交換をすることができた。	B
		学校だより、プレス等の活用により、積極的な情報発信を行う。		B	定期的に学校だよりを発行し、ホームページに公開している。プレス活用は、あまり進んでいない。	B	学校だよりの発行については、年間を通し進めることができた。今後、ホームページの効果的な活用、発信を考えていく必要がある。	
		学校地域協働本部活動の事業を活性化させる。		C	活動の活性化には至っていない。推進員と連携を密にしながら、進めていく必要がある。	C	活動について、推進員と連絡を取りながら進めた。活性化には至っていないが、今後も連携を図りながら進めていきたい。	
働き方改革の推進	教職員の同僚性・協働性を高め、風通しの良い職場づくりをする。	不祥事0（ゼロ）のためにコンプライアンス研修を定期的に行う。		A	毎月コンプライアンス研修を様々な方法で実施し、職員の意識は高くなっている。	A	年間を通して、様々な方法でコンプライアンスに関する研修を行った。	B
		「ほうれんそう」を徹底し、組織としての機動力を向上させる。		B	日常的に情報の共有化ができている。職員間のコミュニケーションもある程度できている。	B	問題発生時には各担当や主任が積極的に行動し、機動的に素早い対応を取ることができた。	
		校務分掌の機能を高め業務の平準化を図り、時間外勤務時間の削減を図る。		B	特定の教職員に業務が偏り、時間外勤務が増加する傾向がある。	B	昨年度に比べると時間外勤務は減少の傾向にある。しかし特定の教職員の時間外勤務が多くなっている状況がある。	

令和４年度　美作市立美作中学校　学校評価

Ⅰ．自己評価

（１）生徒指導

①規範意識の向上

・毎日の生活ノートや業間の声かけなど、生徒とコミュニケーションをとる中で、生徒の気持ちを理解しようと努め、よいところを認めながら、落ち着いた学校生活が送れるよう取り組んだ。

（ア）ほとんどの生徒が服装等のきまりを守っている。しかし、髪型やピアスについての指導が数件あった。また、朝、遅刻をする生徒が多くなってきているので、時間を意識して行動していくよう声かけをしていきたい。
アンケート結果では８６％（－４％）の生徒がルールの大切さを実感し、生活できている。

（イ）話が聞けない、感情をコントロールできないなど配慮が必要な生徒と周りの生徒とのコミュニケーション不足によるトラブルが増加している。個々に応じた粘り強い指導を続けている。

（ウ）下校指導での声かけを継続している。狭い道での並走や帰り道に集団でたまって暗くなるまで時間を過ごすなど地域から苦情が寄せられている現状もある。今後も、関係機関やＰＴＡとも協力しながら、教職員全体で取り組んでいく必要がある。

（エ）SNS など顔を合わせないネット上でのトラブルが数件あった。学校に携帯電話持ち込み許可を申請している生徒は全体の４５％程度だが、家庭での使用状況も含めると、もっと多くの生徒がネット使用可能環境で過ごしている。トラブルの未然防止としての道徳や情報教育講演会、警察と連携した非行防止教室、集会での注意喚起などを継続していく。また、保護者への意識付けをする機会も必要である。

②生徒指導体制の充実

・生徒の健全育成に組織的に取り組んだ。

（ア）毎週木曜日１限目に生徒指導・いじめ未然防止委員会を開催し、情報交換や指導の方向性の共有をすることができた。また、学年を越えた共通理解や連携もできた。
教職員全員が同一歩調で指導することができるようにするため、年度当初にしっかりと共通認識をし、リアルタイムでの情報共有を心がけていくことが大切である。また、定期的に自分たちの指導や、対応がどうであったかを振り返り、確認することも大切である。

（イ）学級経営では学年方針のもと、担任を中心に学年団全体で協力して行っている。また、学校行事では、クラスが団結して達成感が感じられるものを工夫し、実施している。
アンケート結果では、「学校は楽しい」項目が生徒８４％（－２％）であり、全体の雰囲気はおおむね落ち着いている。

（ウ）各学年ともに不登校傾向の生徒がいる。毎月末に不登校対策委員会を開催し、全学年の情報を共有している。別室「たんぽぽルーム」での指導を中心に、学年団と連携しながら、具体的な対応策を模索し実行している。「小さなサインを見逃さない」「初期対応に気をつける」「情報共有を密に行う」ことなどの取り組みを学年や学校全体で進めている。

【今後の課題】

・大きな問題行動はほとんどないが、トラブルに直面した際、自主的に解決できない生徒が多い。また、見て見ぬふりをするなど、関わりを持たないようにする生徒もいる。生徒が主体的に考え行動できる機会を増やし、自主的に行動できる集団になるよう努力していきたい。
・今年度は生徒が提案・企画・運営したクリスマス会を実施することができたが、全体的に生徒から発信して行うことは少ない。今後、生徒から「こんなことやってみたい」といった声が上がり、教員がしっかりとバックアップして取り組めるような活動が広がると良い。また、生徒が主体的に活動する場面では、自由にさせるだけでなく、粘り強く話を重ねていき、よりよい方向へ生徒・教員が作り上げていけるような活動になるとよい。
・交通ルール厳守の意識を自覚させる。中でも事故につながる並進について、指導の徹底を図る。（街頭指導、ＰＴＡ活動、交通教室の充実、下校指導など）
・SNS などネットトラブルについて、非行防止教室などを繰り返し行い危険性を周知し、未然防止のため家庭との連携を図る。保護者対象のネットモラルの研修も実施する必要がある。
・共通理解・同一歩調・各学年団の連携について、より一層充実させていく必要がある。
・学校全体で円滑な人間関係を形成できるよう、学級での集団作り的な活動や、行事におけるクラスが団結して達成感が感じられる活動を充実させる。

（２）学力向上

①授業の改善

・『主体的に「学ぶ」生徒を育む授業づくり』に向けて改善を行っている。
学習規律の徹底、家庭学習の充実に向けた取組を行った。

（ア）①落ち着いた学習環境、②授業改善、③家庭学習の充実、を重点に学力向上に向け取り組んでいる。

（イ）集中力を欠く生徒、忘れ物が多い生徒に対して、家庭と協力しながら指導を継続している。

（ウ）授業の質の改善については、校内研修・小中合同研修会・美作市授業改革研究会などを通して取り組んでいるが、公開授業はまだ十分に実施できていない。また、家庭学習の在り方について協議し、「自主学習プリント」を活用することで、家庭学習の定着を図っている。

（エ）各教科の授業において、「めあて」を掲示し、最後に「まとめ」「振り返り」に取り組むことで、生徒に学んだことが自覚できるよう工夫している。タブレットなどのＩＣＴ機器の活用やグループワークを取り入れるなど授業展開を工夫している。１２月実施のアンケートでは、「授業がわかりやすい」と答えている生徒は７５％（－２％）となっており、まだまだ改善の必要がある。１月に実施のアンケートで、「振り返りでは『疑問に残ったこと』『もっと学びたいこと』を確認している」と答えている生徒は、７５％（８月＋６％）となっており、学びの成果を実感し、自ら課題を見つけ解決しようとする成果が少しずつ現れてきていると思われる。「毎日家庭学習に取り組んでいる」生徒は６６％（－１％）であり、今後も保護者と協力して家庭学習の充実を推進していく必要がある。

（オ）学習環境の面では、朝読書に取り組み、全体として落ち着いた１日のスタートがきれるようになっている。

（カ）基礎学力の定着を図るために、毎日１０分間の補充学習に取り組んでいる。

（キ）年間指導計画にそって進路指導を行っている。「進路や生き方について学ぶ機会があり、学習した内容は大切だと思う」生徒は９０％（±０％）となっている。引き続き、キャリアパスポートなども活用し、希望進路の実現に向けた情報提供を行っていきたい。

（ク）年間授業時数は、夏季休業中の登校日の設定、週３０時間の取組により、時間の確保に努めている。

②学力調査の結果

・全国学力学習状況調査、県学力学習状況調査の結果を考察し、改善プランを立て取り組んでいる。
３年生の全国学力調査では、国語・数学・理科とも全国平均を下回っている。数学と理科の正答率は5割を下回っている。
２年生の県学力調査では、国語・数学・英語全てで県平均を下回っている。
１年生の県学力調査では、国語・数学ともに県平均を下回っている。

【今後の取組】

・「授業規律の徹底」を柱に、『主体的に「学ぶ」生徒を育む授業づくり』を意識しながら、さらなる授業改善に取り組む。また、小中で連携して、家庭学習の習慣化の取組を強化していく必要がある。
・学習支援ボランティアの方々には、コロナ禍を境に依頼できておらず、新規ボランティアの開拓も難しい状況である。今年度は教職員のみで「放課後教室」や夏休みの「補充教室」の指導にあたっている。今後、学生ボランティアの協力をあおいで、学力向上のみならず進路に対する雰囲気作りという点でも成果を上げていきたい。
・「わからないことに対する手立て」については、各学年とも放課後の質問教室、放課後教室（数学・英語）や朝学習などの取組を行った。放課後教室では、課題の選択制、習熟度別の対応など、生徒のスモールステップの手助けとなる取り組みを実践した。今後も継続して行っていく。
・家庭学習の充実に向け、全学年で行っている「自主学習プリント」の取組も定着し、各学年や教科において、内容についての評価などもフィードバックしている。今後、特に授業と家庭学習の連動を意識し、「予習課題・復習課題」を実施し、子どもの意欲向上につなげていきたい。来年度以降も全校で行っていく。

（３）特色と魅力のある教育活動

○特色と魅力のある教育活動

・学校行事、生徒会活動、部活動、地域と連携した教育活動をいろいろと工夫している。生徒の自主性・主体性を培うとともに、達成感・成就感を体験させることを目標に取り組んだ。

（ア）「学校行事や委員会活動などは学校生活をより楽しく豊かにするために役立っている」は生徒７４％（－４％）、保護者８７％（＋１％）となっている。学校全体が落ち着いてきている中で、ボランティア生徒による活動が増加し、清掃活動や有志実行委員による会の企画・運営など、学校を盛り上げようとする動きが定着しつつある。今年度は延べ５８０人の生徒が有志の活動に参加した。今後、行事だけでなく日常生活の様々な活動においても、生徒が自主的に活動していけるような工夫が必要である。

（イ）「部活動（社会体育）に積極的に取り組んでいる」生徒は８２％（－２％）となっている。今年度も未だコロナ禍ではあるが、大会や発表会等は有観客の本来の形に戻りつつある。部活動が楽しみという生徒も多く、学校生活の励みになる活動になるよう、今後も感染対策を徹底しながら活動していきたい。

【今後の取組】

・体育祭、合唱祭は、比較的よい取組と評価されている。毎年検討をし、さらなる改善に取り組む。
・各行事についてコロナの状況も考慮して検討を重ねながら、達成感、成就感を感じる生徒が増えるように、さらに改善・充実させていきたい。
・「周りから愛され応援される学校」をスローガンに掲げる生徒会を中心に、有志による活動を今後も継続させ、委員会などに所属していない多くの生徒が、当事者として達成感や成就感を体験できる活動を定着させていきたい。
・生徒数を考慮した部活動の設置数についても、部活動の地域移行の動きを注視しつつ、将来を見据えた検討をしていく必要がある。

（４）学校運営組織の機動化

①学校運営組織

・校務分掌の機動化を図るため、その分掌の意義と役割、担当者の責任を明確にして活動することを目標とした。

（ア）各分掌とも機能し、生徒指導・いじめ未然防止委員会、不登校対策委員会、特別支援推進委員会などの常設委員会や体育祭実行委員会などの臨時委員会も機能することができている。

②危機管理

・生徒の安全・安心を確保するための取組を行う。

（ア）アンケートを見ると、「事故や災害などから生命を守るために、どのように行動すればよいか知っている」は生徒８２％（－１％）、保護者７８％（－２％）といった回答である。今後も新型コロナウイルス感染症の対策としてマスク着用や消毒、換気などを徹底し、もしものときに自分で考えて行動できるように、安全教育をさらに進める必要がある。

【今後の取組】

・各分掌や委員会の機動化を推し進めることは学校運営の活性化に必要不可欠である。さらに、自己評価アンケートや中間総括も実施し、分掌内だけの反省で終わらず横の連携もできるように調整する必要がある。
・毎年の反省をもとに、分掌表の見直し（分掌の統合など）をする必要がある。
・本年度も、地震と火災の避難訓練を実施した。火災については、５分以内に集合できるなどの成果があった。しかし、真剣味が欠ける生徒がいたことも事実である。
・安全・安心を確保するため、不審者対策の訓練は必要である。
・生徒に対する心肺蘇生法などの救急救命法は、保健体育の授業として継続して取り組む。

（５）開かれた学校づくり

○開かれた学校づくり

・地域に親しまれ、信頼される学校づくりを目指して努力した。

（ア）学校を開くという面では、授業参観・フリー参観・学級懇談会・学年懇談会・土曜日授業などを設定した。新型コロナウイルスの影響で学年レクは実施せず、体育祭や合唱祭は延期して実施した。来年度も今年度同様に計画をしている。地域や保護者の方に学校に足を運んでもらう機会を増やしていきたい。

（イ）保護者との信頼関係という点では、「子どもの気持ちを理解しようと努め、励ましてくれる」は７５％（＋３％）で昨年度とほぼ変わっていない。学級通信の発行や学校メールを利用した家庭へのこまめな連絡などを通して意思の疎通を図り、継続して信頼関係づくりを進めていきたい。

（ウ）今年度もイキイキ応援団による「放課後教室」の学習支援は実施できなかったが、「お鍋の会」は引き続き実施することができた。生徒会スローガンにもあるように、学校を支援するボランティアとして指導して下さる方々への感謝の気持ちを活動の中で伝えていきたい。「地域に親しまれ、信頼される学校」に向けて今後も連携を深めていきたい。

（エ）民生委員、警察協助員、サポートセンター、警察署、ＰＴＡの方々によるあいさつ運動、街頭補導、校内巡回を設定した。多くの方に関わっていただきながら、安心・安全な学校づくりができた。

【今後の取組】
・信頼関係を築くために、さらに細やかに気を配っていく必要がある。
・保護者の要望により配布している月別行事予定は、今後も継続していく。
・学習支援ボランティア（家庭科）の支援による実習は、生徒達の進路実現や安全、コミュニケーション力の向上に大きく貢献してきた。これからも、開かれた学校づくりを常に意識して推進していきたい。

Ⅱ．美作中学校イキイキ応援団（学校関係者評価委員）

里見　力（会　長）	阿部芳孝（学校評議員）
木村知奈美（学校評議員）	綱澤修二（学校評議員）
寺元恵子（主任児童委員）	中村一富（美作市人権教育推進委員会委員）
平田克哉（青少年育成センター職員）	長瀬諭司（元本校職員）
鳥越重一（地域支援コーディネーター）	尾髙弘之（元ＰＴＡ会長）
小山　修（元ＰＴＡ会長）	名部好弘（元ＰＴＡ会長）
檜尾泰幸（ＰＴＡ会長）	津田由紀（ＰＴＡ副会長）
谷口孝幸（ＰＴＡ副会長）	奥山賀崇（ＰＴＡ副会長）
西村吉正（ＰＴＡ副会長）	中川昌子（ＰＴＡ副会長）
坂本昌子（ＰＴＡ副会長）	山下直之（ＰＴＡ監事）
橋本博正（ＰＴＡ監事）	

令和4年度　美作市立作東中学校　　学校評価書

学校教育目標	「自らの考えを持ち、他者と協働し、心豊かにたくましく生きる生徒の育成　～本気・笑顔・輝き～」
教育方針 （三力精神）	・気力（自主的に学習し、行動に勇気と責任を持ち、何事にもねばり強くやりぬく生徒の育成） ・体力（勤労を尊び、スポーツに親しみ、心身ともにたくましい生徒の育成） ・協力（自分をよく見つめ、他人を理解して、だれとでも仲良くできる生徒の育成）

評価基準

A：目標を上回った（85%以上）　B：ほぼ目標通り　C：目標を下回った（65%以下）

総合評価（学校評価委員会）

A	生徒は学習、学校行事、生徒会活動など意欲的に取り組んでいることが感じられる。テスト前だけでなく、ふだんから目的意識をもって計画的に学習できるようなの関わり方が必要である。また、スマートフォンやネット等の利用のしかたについては、家庭と連携してより理解を深めてもらうと同時に、保護者どうしで意見交換をする場も今後増やしてもらいたい。生徒と教職員の関係性が良好であり、今後もいじめや不登校につながる予兆等を敏感に感じ取ってほしい。

重点目標	方策	具体的評価規準（教員）	評価		具体的評価規準（生徒・保護者）	評価		重点目標総合評価	重点目標の達成状況と次年度に向けての改善点
確かな学力の育成	授業規律の定着	けじめのある授業前後の挨拶と返事ができるようにさせる。	100	A	【授】「集中して授業に参加している。」	94	A	A	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響は残ったが、生徒は意欲的に学習している。 「授業前後の挨拶や返事」は学習のためだけでなく、社会生活の中の基本としてあたりまえに身につけさせたいこととして丁寧に指導し、学校全体で定着している。 「授業規律の徹底」は、何よりも学力向上の基礎となるものと考えて、今後も徹底させていきたい。
		私語や手悪さがないようにさせる。	100	A					
		忘れ物がないようにさせる。	93	A					
	めあてとまとめを意識した授業	「めあて」により意欲と見通しをもたせ、「まとめ」で定着をはかる。	79	B	【授】「授業のはじめに学習のめあてが示され、学習しやすい。」	94	A		昨年度とほぼ同じ数値である。 「まとめ」や「ふりかえり」は授業理解のための大切な活動であるとの認識のもと、各教科でふりかえり方法を工夫しながら取り組んでいる。
					【授】「授業の終わりに学習のまとめがあり、理解が深まる。」	85	A		
	関わり合い深め合える授業	生徒が自分の考えがもてるよう時間を確保し、発問を工夫する。	100	A	【授】「授業では、先生や友だちの話をよく聞き、自分の考えをもち、それを人に伝えることを意識している。」	83	B		今年度「聴く・考える・伝える」の評価指標を作成して、教員・生徒ともに意識して授業に取り組んできた。この3項目の下にさらに3段階の指針を設け、具体的にどのようにがんばるべきかを示し、意識しながら授業に取り組んだ。最終段階には到達できなくても、第1、第2段階には到達できる生徒がほとんどで、来年度はさらに指導や授業形態を工夫し、第3段階に進める生徒を増やしていきたい。
		友だちの考えに対して意見を言わせる。	79	B					
		協同的学習の場を設定し、高め合える授業の工夫をする。	100	A					
	指導方法や指導体制の工夫による分かる授業	ユニバーサルデザインの観点から、板書の工夫、視覚教材やＩＣＴの活用等、授業の工夫をする。	93	A	【授】「授業の内容がよく分かる。」	86	A		各学年に発達の課題を抱えた生徒もいるが、個に応じて対応を工夫しながら取り組んでいる。 タブレットの導入から3年経過し、活用の範囲が広がってきた。今後も、授業構成、発問や課題の工夫、ＩＣＴの活用など多方面からよりよい授業を作っていきたい。
		個に応じて質問時間を設けたり、机間指導をこまめに行うとともに、授業終了後、少し教室にとどまるなど、質問しやすい雰囲気をつくる。	93	A					
	補充教室の充実	集中した自主学習をさせるとともに、協同的な学習などを利用し、学び合い・高め合える工夫（予想問題作成など）をする。	82	B	【学】「テスト前の補充学習には積極的に取り組んでいる。」	86	A		学校全体で、テスト前の自学自習の習慣をつけるよい取り組みになっている。地域の方の応援もあり、良い雰囲気の中で学習できている。
	家庭学習の充実	家庭学習の計画を立てさせるとともに、途中での修正もできるよう声かけをする。	50	C	【学】「テスト前には、学習計画を立て、それに沿ってテスト勉強をしている。」	71	B		生徒アンケートでは例年と同程度の数値である。本校ではまじめに学習に取り組める生徒が多いが、テスト前に課題だけして終わってしまう生徒も多い。来年度からは定期テストの回数が減り、ますます定期テスト以外の学習活動を評価するしくみになるため、テスト前だけ短期集中の学習に終わらない学習計画の立て方を指導していく必要がある。
		年間の見通しをもつとともに、授業への繋がりを工夫した宿題（予習）を出す。	62	C	【授】「提出物や宿題をきちんと出せている。」	88	A		
豊かな心と自主性の育成	あいさつ・返事・くつ揃えの習慣化	教員が率先して挨拶をするとともに、誰にでも進んで挨拶ができるようにさせる。	88	A	【学】「日々の生活の中で、挨拶・返事・靴揃えに心がけている。」	97	A	B	長年の取り組みで、生徒会が中心となって活動している。作東中の「あたりまえ」の活動の第一歩として定着している。学校生活だけでなく、社会にでても必要な基本的な習慣なので、やらされてするのではなく、意義を理解して自主的に行えるよう、取り組みを続けていきたい。
		くつ揃えなどの整理整頓が習慣化するようにさせる。	94	A	【保】「生徒は、挨拶、返事、服揃えを心がけている。」	89	A		
	よいところをほめ・励まし、達成感を感じさせる指導	一人ひとりの存在を大切にし、生徒が自己有用感を感じられる教育活動を工夫する。	100	A	【学】「自分は人の役に立っていると思う。」	56	C		教員と生徒の認識のギャップが一番大きい項目である。 「自分は人の役に立っていると思う」と答えた生徒は、各学年とも５５％前後で昨年よりやや低下したが、教員から見た実態はそこまで悪くないと感じる。「先生は…」の項目は、昨年より上昇しているので、今後さらに生徒を認め、励ますなどして、生徒自身に実感をつかませたい。
		生徒に積極的に声かけを行うとともに、小さな成果を見逃さず褒め励ましていく。	100	A	【学】「先生は自分の気持ちを理解し、努力を認めてくれる。」	90	A		
					【保】「学校は、子供のことをよく理解し、努力したことを認めてくれる。」	85	B		
	自治的な集団づくり	目標（個人・学級・学年・生徒会）を設定し、それを達成しようとする中で、所属感や連帯感を深め、また生徒自ら学校生活を良くしていこうとする積極的な態度を育てる。	100	A	【学】「日々、目標を持って生活している。」	74	B		昨年度とほぼ同じ数値である。学期や行事ごとに目標を立てて取り組んではいるが、目先の結果目標になりがちな面もある。「目標を立てる」「それを達成するために実践する」「振り返り、修正する」活動を繰り返しながら自分を見つめ、高めるとともに、キャリア教育の面からも進路の先を見据えた長期目標が立てられるカも身に付きえさせていきたい。 今年度は、生徒会を中心に校則について話し合い、いくつかの点を変更した。このことは、自分たちの問題を自分たちで改善できること、それゆえに責任が伴うことを学ぶ良い経験になったと思われる。
		特別活動において、話し合い活動と「選択・決定・責任」という道筋を大切にする。	100	A	【学】「話し合いの時は自分の考えをもち、意欲的に参加している。」	78	B		
		生徒会活動において、生徒ひとりひとりに参画意識をもたせ、行事等では自分たちで作り上げたという達成感を持たせる。	93	A	【学】「生徒会・委員会活動には積極的に参加・協力している。」	66	B		
					【保】「生徒は、生徒会・委員会活動に積極的に参加・協力している。」	71	B		
健康・安全と体力の向上	いじめ、不登校を生まない指導	校内にいじめを許さない雰囲気をつくる。	93	A	【学】「学校では安心して過ごすことができる。」	92	A	A	今年度は不登校傾向の生徒が減り、多くの生徒が学校生活を楽しく送れている。 新型コロナウイルスの影響で制限されていた学校行事も徐々に元に戻りつつある。学校生活の様々な場面で、人とかかわりながら学び育っていく機会を作っていきたい。 その他の項目でも教職員との関係性が向上していることがうかがえる。生徒指導・教育相談などの活動を充実させながら、今後も生徒が安心してすごせる学校づくりをしていきたい。
		家庭と連携し、学校に来づらい生徒の対応に力を入れている。	94	A					
		日々、生徒の身体面、行動面、精神面からのサインをキャッチする努力をすると共に、教職員間での情報交換を密にする。	100	A					
	共感的な人間関係づくり	友達の良いところを認め合う場をできるだけ多く意図的に設定する。	94	A	【学】「お互いの良いところを認め、お互いを大切にしている。」	92	A		生徒数が減って、クラス替えのない固定した集団での生活が3年間続くため、学級内での人間関係構築は学校生活の充実のためにも大きな意味を持つ。基本的な「言葉遣い」「思いやり」が人間関係の基礎にかかわって来ると思われるので、日ごろから「温かい言葉かけ」を意識し。小さなことから丁寧に指導していきたい。
		言語環境を整え、日々の生活の中で相手の気持ちを考えた言葉遣いを意識させる。	100	A	【学】「日々の生活の中で、相手の気持ちを考えた言葉遣いを意識している。」	85	A		
	ＳＮＳへの対応促進	SNSの適切な利用について、生徒自ら考える場を設定している。	67	B	【学】「スマートフォンなど通信機器を約束守って使っている。」	87	A		R2年度８２→R3年度８３→今年度８７と年ごとに上昇している。 SNSに起因するトラブルは近年の課題となっているが、生徒会を中心とした「スマホサミット」に全校生徒で参加し、考える機会を得たことはプラスになった。今後、保護者を含め家庭での利用法についてもより理解を深めていきたい。
		SNSに潜む危険性を保護者へ啓発をし、スマホ等の保護者管理を推進している。	62	C	【保】「家庭では、スマートフォン等通信機器の利用し付いて、保護者が適切に管理できている。」	67	B		
	教育相談活動の充実	授業間などを利用し、教室・廊下などで生徒の様子を観察・声かけをし、日頃から人間関係をつくる努力をする。	100	A	【学】「学校には相談できる先生がいる。」	79	B		R2年度６５→R3年度７０→今年度７９％と年ごとに上昇している項目である。 年2回教育相談週間を設定しただけでなく、日ごろから教職員が生徒に積極的にかかわり、生徒の言葉に耳を傾けてきた成果と思われる。今後もよりよい人間関係づくりに励んでいきたい。
		教育相談週間を設定し、外部機関との連携をしつつ、個々の生徒理解に努める。	93	A	【保】「学校は、子どものことについて相談しやすい。」	81	B		
	部活動の充実	部活動は生徒の主体的な活動になっている。	93	A	【学】「部活動には積極的に参加でき、充実している。」	88	A		全校生徒の７７％が部活動に参加しており、多くが充実した活動を行っている。教職員の指導も、生徒の主体性を大切にしており、技術の向上だけではなく、精神面や人間関係の成長を促していきたい。
		部活動では、技術だけでなく、あいさつやマナーなどの指導もあわせて行っている。	100	A	【保】「生徒は、部活動に積極的に参加している。」	93	A		

令和4年度	美作市立英田中学校	学校評価書	
学校経営目標 「すべての生徒が愛されていると実感できる教育活動を実践する学校」 学校教育目標 「自らの考えを持ち、他者と協働して、心豊かにたくましく生きる生徒の育成 ～本気・笑顔・輝き～」		～めざす学校像～ ・活気と規律が調和した笑顔あふれる学校 ～めざす生徒像～ ・何事にも挑戦する生徒 ・自他を大切にする生徒 ・心身共に鍛錬する生徒	～めざす教職員像～ ・一人一人に寄り添う教職員 ・生徒の可能性を信じ伸ばす教職員 ・魅力ある存在、魅力ある授業を追求する教職員

A・・・65%以上　B・・・30%以上　C・・・30%未満

指導の重点	指導の重点の中身	教員具体的評価基準	割合	ABC	生徒具体的評価基準	割合	ABC	評価	次年度に向けた改善点
知・確かな学力の向上	自己表現を高める生徒主体の学習活動	子どもたちの思考力や判断力、表現力を豊かにし、確かな学力を保障する授業改善と創意工夫のある実践を行っている。（教）	100%	A	授業では、自分の考えを発表したり友だちと意見を交流したりできる場面があった。（生）	90%	A	B	・授業で全員が参加できるのは、少人数の強みである。次年度もその特徴を活かし、クロームブックの活用をより促進し、ユニバーサルデザインを意識した授業ができるようしていきたい。 ・書く力（授業ノート、自学ノート、プリントなど）をつけたい。情報を整理整頓し、まとめることは重要である。板書の工夫や自学ノートなど活用し書く力を高めたい。 ・家庭学習の項目の評価があまり高くない。約4分の1ほどの生徒が「あてはまらない」と回答している。主体的に授業にのぞむには、予習は欠かせない。予習としての自学ノートの活用の促進、復習としての適切な課題設定をしていきたい。授業中、補充学習での予習復習の時間の確保など、工夫したい。生徒会活動からも家庭学習の啓発をしていきたい。 ・道徳、学活、総合でのICTの活用が進み、学校としての型ができつつあった。校内研修を推進し、より積極的に取り組んでいきたい。
	家庭学習習慣の確立	子どもたちの家庭学習の習慣づくりを工夫し、子どもたちの学びの意欲を高めるために点検も細やかに行っている。（教）	100%	A	家で授業の予習や復習をしている。（生）	53%	B		
					自主学習ノートを活用することができた。（生）	50%	B		
	生徒同士の認め合いを大切にした授業づくり	子どもたちの主体的な学びを促し、確かな学力をつける授業作りを進めている。（協同的探求学習）（教）	100%	A	授業、道徳、学活、総合では互いに認め合い、高め合う学習ができた。（生）	88%	A		
徳・豊かな心の育成	気持ちの良い「あいさつ」「返事」「整理整頓」の徹底	子どもたちの人間関係づくりを基本として、学級・学校集団づくりに努力している。（教）	94%	A	自分から友だちや先生、お客様、地域の方などにあいさつをしている。（生）	88%	A	A	・確かな学力の育成には、生徒の「非認知スキル」の獲得は大切である。引き続き、温かい集団作り、人間関係作りを通して、お互いを認め合う学校の雰囲気作りに努めたい。 ・「下駄箱の靴をそろえる」はよくできていた。「個人ロッカーの整理整頓」については、クラスでの整頓の時間を確保し、子どもたちに整理整頓する力をつけていきたい。清掃活動では、普段から美化意識を高め、すみずみまできれいにさせていきたい。 ・将来の夢、目標、進学への意欲など、キャリア教育では目標設定が大切である。学級活動、委員会活動、教科の授業など様々な場面での目標設定を意識したい。進学説明会、オープンスクールなど、外部とのかかわりの中で「社会で通用する人になる」という意識を持たせ、将来を考える機会を設けていきたい。 ・授業等の学習場面以外でも、生徒自身が「めあての設定」や「活動の振り返り」を行うことにより、より主体的な学校生活を送ることができるようにしたい。 ・教育相談、デイリーライフなど、日常から生徒とのかかわりを深め、信頼される学校を築いていきたい。 ・小さなことから認め、賞賛することで、生徒の自己有用感を高めるとともに、集団のリーダーを育てたい。休み時間など生徒との関わりを深め、信頼されるよう努めたい。
					身の回りの整理整頓を心がけている。（生）	90%	A		
	道徳教育・キャリア教育の充実	道徳教育やさまざまな活動を通して、子どもたちに思いやりの心や郷土を愛する気持ちを育てている。（教）	100%	A	進路や将来についての情報を学習する場面があった。（生）	85%	A		
					相手を思いやる言動をすることを心がけ、いじめのない学校生活を送ることができている。（生）	95%	A		
	感動体験・ボランティア体験の充実	子どもたちの自己有用感を高め、よりよい学級・学校集団づくりに努めている。（教）	100%	A	近隣の方の講演などを聞き、自分を高める機会があった。（生）	68%	A		
					学校には相談できる先生がいる。（生）	60%	B		
					先生は自分がした努力を認めてくれる。（生）	90%	A		
					生徒会活動に積極的に参加・協力している。（生）	73%	A		
体・健全な生活・環境の充実	規範意識の醸成	子どもたちが落ち着いて学校生活に取り組むことができるよう、精神面や環境面で支援している。（教）	100%	A	授業の決まりや服装・頭髪などの生活の決まりを守っている。（生）	98%	A	B	・落ち着いた学校生活を送るために、校則などのルール、周囲に配慮したマナーは大切である。授業中の決まり事もふくめて、職員間の連携を深め、組織としての対応力を高めると共に、生徒の自治的活動からも明るく、よりよい学校作りを図りたい。 ・今年度は、部活動に所属していない生徒が増加したため、数値が高くなかった。一方で、部活動に参加している生徒は、先生と共に熱心に取り組み、成果を出すことができた。 ・スマートフォンやゲームなどの扱い方は、家庭でのルール設定が大切である。情報モラル教育や生徒会活動などにより、生徒の意識を高めると共に、PTA活動からも啓発できるよう働きかけたい。 ・ICT教育においては、職員同士の情報共有をうながし、校内研修などにより、活用力を高めたい。
		子どもたちが安全に安心して学校生活をおくることができるように、工夫して教育実践を行っている。（教）	100%	A	部活動に積極的に参加した。（生）	53%	B		
	基本的生活習慣の確立	子どもたちの基本的生活習慣づくりや健康・体力づくりに向けて、家庭と連携して取り組んでいる。（教）	100%	A	家庭では、スマートフォン、パソコン、ゲーム機等の利用について、ルールを決めている。（保）	68%	A		
	メディアを適切に利用することのできる能力の育成	中学校区の校・園が連携・協力して、異校種間のつながりを意識した一貫性のある教育を行っている。（教）	100%	A	グループ学習やICT機器を活用するなどの授業の工夫を行っている。（保）	95%	A		